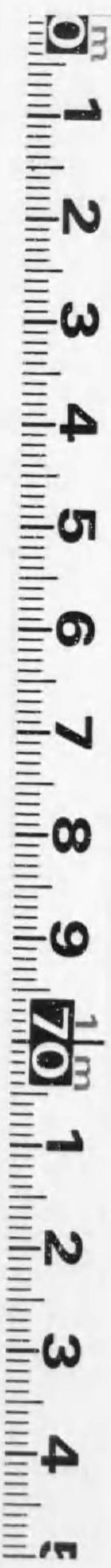
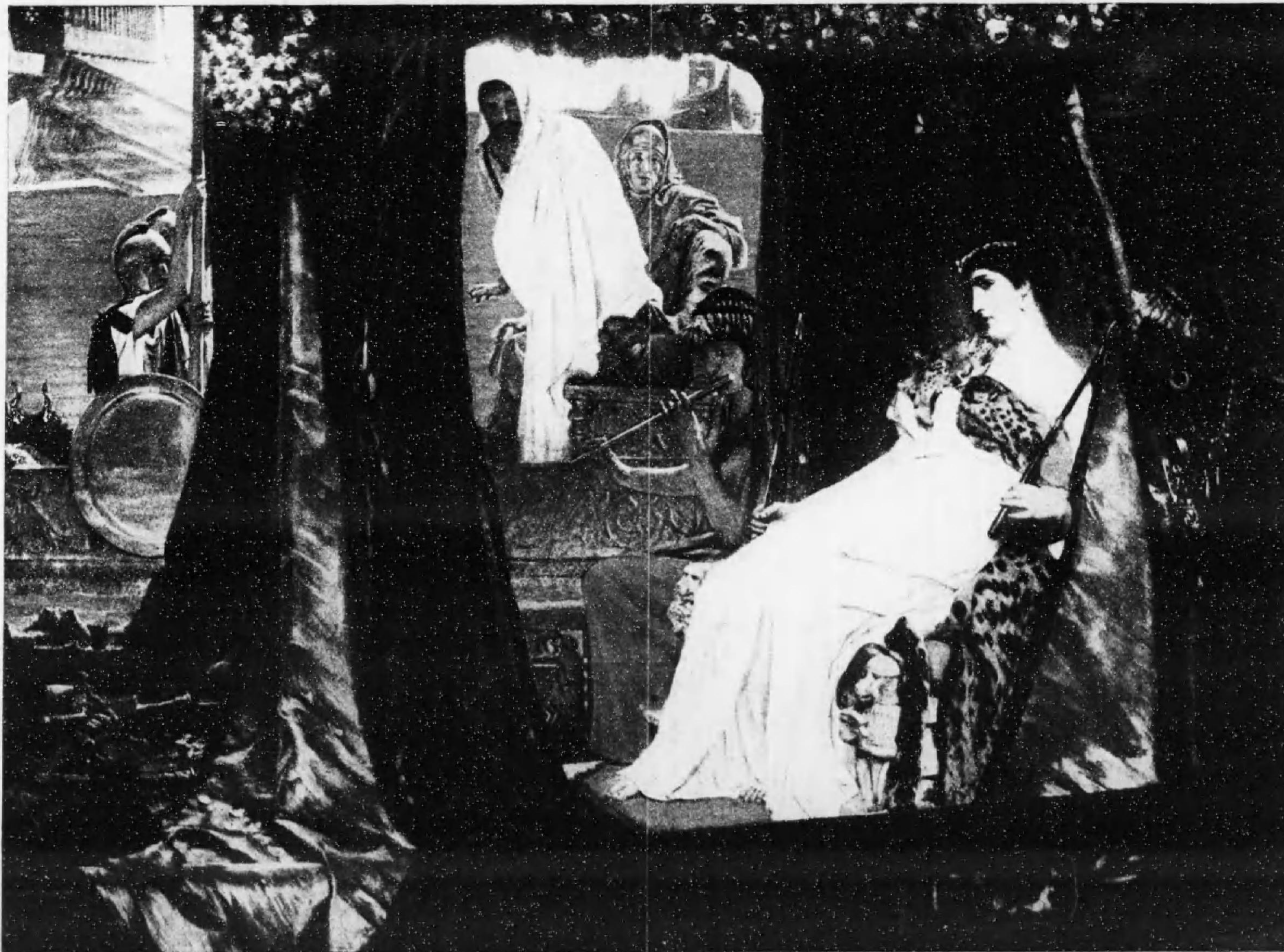


522
8
176



始





From the painting by L. Alma-Tadema.

Enobarbus. "The barge she sat in, like a burnish'd throne,
Burn'd on the water : the poop was beaten gold."

Act II, Scene II.



ア
ン
ク
ト
レ
シ
ト
オ
ハ
ト
ラ

坪内逍遙

譯
13. 3. 29
購求



結 言

沙翁劇中の「最も駭くべき作」と稱せらるゝ此一篇は、其創作、出版の年月及び憑據、材源に關しては、事蹟甚だ簡單なり。其公刊は、例の作者死後の全集本（一六二三年の二つ折本^{フオリス}）を最初とすれども、其創作せられたるは作者四五歳の頃なりしが如し。何となれば、「アントニー・トラ」と題したる（但し作者の名を明署せざる）一冊（一六〇八年の新著目録中に見えたり）

ばなり。然れども、恰もそれと同時に同作者の作として記入せられたりし「タイヤの君ベリクリーズ」は、其翌年に沙翁の作として刊行せられたるに、此作は、作者の存生中には、曾て公刊せられし證跡あらず。然るは俗に歡ばれざりしが爲か否か、今は之を明らむるに由なし。

アントニーとクレオパトラとの事蹟は、彼のプルタークの名著によりて、遍く人口に膾炙したりし故、沙翁の此作以前にも、英國內だけにても、既に二種のクレオパトラに関する脚本存在したりき。一は當時の^{ポエツト、ローリエ}桂冠詩人サミュエル、ダニエルの

作「クレオパトラ」(一五九四年作)と題したる劇にして、二は佛人ガルニエーの作「マルク・アントワン」をペンブローク伯夫人が「アントニーの悲劇」と題して英譯せしもの(一五九五年)是れなり。但し沙翁は、是等の作には、(一六七七年に至りてチャールス・セドリも同種の劇を作れり)幾んど何等の負ふ所もなく、主としてプルタークに依據したるらしく、アントニーに關する事項も、クレオパトラに關する事項も、時には其細目に屬する事すら、プルタークが紀事の敷衍か劇化かに外ならざる程に、忠實に且つ細密に史實の有りのまゝを辿りたり。こは彼れが、其英國史劇に於て、彼の

ホリンシエドらの紀事史を援據としたりしと全く同一の筆法たり。即ち其内容は、紀元前四十年より同三十年に至る十年間の事蹟にして、彼のブルータスとカシヤスとが希臘のフィリッピ原にてアントニーらと戦つて敗死し、羅馬全領がオクテギヤス（シーザー）、アントニー、レビダストライムビユレト三執政官の間に分割せられし當年に始まりて、大ボンベイの子ボンベイの亂、アントニーとオクテギヤスとの軋轢なかにに中し、アントニーの敗死、クレオパトラの自殺に至りて終る。随つて史實上よりいへば、沙翁が前作、「ジュリヤス・シーザー」と直ちに相接續すべき羅馬史劇なれども、其作柄よりいへば、互ひに相類似す

といはんよりも寧ろ互ひに相對照すともいふべき作なりと故ダウデン教授はいへり。氏の比喩せる如く、「ジュリヤス・シーザー」は古希臘の彫像などの如く、様式も刀法も緻密に且つ嚴格に、絶えず緊張せる趣ありて、何となく窮屈なる感じを與ふれども、此作は、文藝復興期も稍、其末葉に屬する、極めて豊艶なる油繪などの如く、忽ちに觀者の感覺を捉へ、其血を攪亂し、其想像を魅惑し、劇中に現はるゝ男女の人物を一種の心地よき金色の淡靄中に罩め窺みて、或時は之を夢裡の幻象の如くに感せしめ、又或時は其主人公をして現實以上に壯偉魁大なるものゝ

如く感せしむ。しかも其事蹟の大概は、古史家が事實として書き傳へたるものに外ならざれば、之を名づけて活歴史劇といはんも不可なし。蓋し作者は、例の慧敏なる詩的直覺と不羈自在なる想像とによりて、巧妙に又適切に其複雑なる材料を取捨し、按排し、潤色して、前後十年に亙る「世界的悲劇」の大紛紜を、さながら數ヶ月間の事の如くに脚色せり。とはいへ大沙翁の老手を以てするも、此の如きの作は、之を彼の「マクベス」若しくは「テムペスト」などの如く簡勁ならしめんは困難なりきと見えて、幕の數は五つ、場の數は四十二、其中、第二幕は十

三場より尠からずして、第四幕は十五場の多きに及び、而して或場の如きは僅かに十餘行、甚しきは只四行のみにて終れり。引締りたる結構とはいふべからず。按ふに是れ其實演に成功せざりし一原因ならん歟。近世の批評家らが口を揃へて此作の脚色を散漫なりと難ずるは道理あることなり。成程今日の標準よりすれば、劇たるよりも叙事詩たるに近く、實演用としては蕪漫の誹りを免るべきにあらざるなり。而も斯くの如きは當時の所謂紀事劇クロニクルプレイ一般の常套手法にして、我能舞臺然たる其特殊なる劇壇構造の然らしめしに外ならざる所な

れば、公平に此作を批判せんとする者は、それらの事情をも參酌せざるべからず。要するに、讀み物としての此作の價值は、之が爲に多く損減せらるゝ所無し。

「沙翁史劇中の最も驚異すべき作」といふ讚評を最も早く此作に下したりしは、十九世紀初葉の英國の沙翁通サミュエル・コールリッジなりしが、今は苟も沙翁劇の聰明なる研究者にして、此作を彼れが全集中の「最も驚異すべき作」と歎稱せざる者は極めて稀なり。或は無條件に、之を沙翁が最傑作と做し、直ちに「ハムレット」と伍せしむべ

しといへる者もあり。或は其女主人公クレオパトラを沙翁が女性描寫中の至大至妙なるものと激賞し、其古今に等類を絶するの點、ハムレット及びフォールスタフに伯仲すといへるもあり。或は此戀愛悲劇は近世文學中の最も豊艶なる肉慾描寫の劇詩なりと稱美せるもあり。按ふに、「最も驚異すべき」といふ讚辭に最傑作の意を暗示させて、之を此作全體の上に被らせんとするは溢美なるべし、併しながら妖女王クレオパトラの眞に駭くべき性格描寫が、沙翁以前の劇に其例なく、同時代のに等類なく、又以後のにも、或は十九世紀以後のにさへも其匹敵を見出だす

この容易ならざるを斷言するは、必しも不可なからん歟。娼婦妓女の狡巧なる媚術コケトリを寫し得て妙なるものは、内外の脚本に其類乏しからず、君王を妖惑せる嬖姫の性を劇化せるものも尠きにあらず、クレオパトラを劇に仕組めるものゝ如きも、最近世のまでも算入せば、無慮三十篇に及ぶべく、中には其全體の構想、脚色の引締りたる上より見て、沙翁のに優るものもなきにあらず、しかしながら彼の妖女王の變幻窮りなき端倪すべからざる性格の描寫に至りては、未だ此作の上に出でたる者あるを知らず。

クレオパトラの性格は、主として作者が壯年時の情人、彼の十四行詩中の黒婦人グレイクレディー（メリト・フィットン？）をモデルとして成れるものと推斷せんとする批評家近來漸く多く成れり。或は然るべし。併しながら此作の成りしは女王エリザベスの逝ける後數年なれば、該女王の性行をも窺かに幾分か標本と倣せる點あるが如し。

コールリッチは「ロミオとジュリエット」を自然的好惡アッフエクシオンと本能インスティンクトとに原ける戀愛もとづと名づけ、アントニーとクレオパトラとのを煩惱パッションと肉慾アッベタイトとの戀愛と名づけたりき。實に是れ沙翁作中第

二の戀愛悲劇なり。「トロイラスとクレシダ」の如きも、其表題より觀、又其内容より觀れば、同じく戀愛悲劇と名づけ難きにあらずれども、此作及び「ロミオとジュリエット」の如くに、感興の乗り、力の籠りたる作にはあらず。さすれば、作者が最老熟期の戀愛描寫は、一に本篇に止めたりといふべきなり。史に據れば、クレオパトラが初めてアントニーにシドナス河上にて會見せる時は、齡正に二十八歳にして、其死せし時は三十九歳なり。而してアントニーは、其死せし時、正に五十歳なり。女のは所謂最も危険なる年齢の戀にして、男のは初老後の戀なり。當に來るべき彼等

が享樂の日月の永からざるべきは豫知しがたからず、況んや男は既に屢、其鳶色倣す頭髮の半白毛の爲に侵略せられつゝあるを歎じ、女もまた其皮膚の色の次第に黒み、其唇の紅ゐの漸く褪せ、百媚を湛へたりし其皆にも烏脚の繁く且つ著しきを意識せざるを得ざりし折なるをや。アントニーがクレオパトラの嬌嗔を和め窘めて、其戀の享樂に利用すべき *soft hours* を徒消せざれと勸告するの眞意諒とすべきにあらずや。

“ Now, for the love of Love and her soft hours,

Let's not confound the time with conference harsh:

There's not a minute of our lives should stretch

Without some pleasure now. What sport to-night?

「さア、愛の享樂の貴重なることをお思ひなさい。つまらん争論いひあひそひをして時を徒費いたたけるのは止めませう。生活せいかつの只一分時ぶんじたりとも、今はお互ひに、不愉快に浪費すべき時ではない。……ねえ、今夜は何をして遊ばう？」

中年又は初老後の惑溺に關する話柄は、通例は、内外ともに、餘りに謹嚴に身を持して、制慾克己し、生眞面目まじめ過ぎたる生活を経來きたりたりし所謂「堅い人」の豹變に係るものを多しとす、然るにアントニーとクレオパトラとの場合は

それとは異なれり。男は古代史上の最も放縱なる蕩樂者の隨一人にして、女は勿論世に聞えたる荒淫の妖女王なり。彼等の享樂主義的生活は世界の三分の一を我有となして、之に君臨するに及びて其絶頂に達したるなり。クレオパトラは明かに人間のギーナスなれども、シドナス河上のアントニーは初めて歡樂の森に入れるタンホイゼル其人にはあらず。ダウデン教授の評したる如く、彼等は自分等以上には何等の權力あるをも認めず、故に義務をも責任をも抛擲し去りて、自ら神と稱し、ほしいまゝに驕奢し、淫逸し、沈酗し、蕩溺し、流連の樂み、荒亡の行ひ、

至り極めずといふとなし。其好悪の外には道德もなく、法律もあらず。彼等の意志は即ち至上の道理にして兼ねてまた絶対の國憲たり。彼等の境界は超道德的にして、彼等の態度は本能満足的なり。沙翁の靈筆によりて美化せられたる彼等の放縱なる性行は、幾んど超人のそれに髣髴す。現代の評家等は、或は此作が巧みに英雄の弱點を寫し得たるを看取して、偉人を凡人化したる處に作者の手腕を認めんとするならんが、寧ろ人間を半神化したる點が、六分のロマンチズム、四分の自然描寫に立脚せる沙翁の本領なるべくや。彼の米のハドスン氏

が、此作が荒淫の事蹟を描きながら毫も陋醜の感を起さしめざる、最も歎賞すべしといへる、さることなれども、其然る所以のものは、作者が二人者を半神化して先づ矢庭に魁偉なるかなといふ感を起さしめて、彼等をさながら希臘神話中の神祇などの如く思惟せしめ、其超道德的放縱をも當然の所爲のやうに認識せしむるが爲にはあらざる歟。燎原の猛火の如き彼等が熾烈なる煩惱は、讀む者をして幾んど其惑溺の愚妄を笑ひ又は批議するの餘地なからしむるなり。但し此評は言ふまでもなく例の妙音樂の如き詩語を以て綴られたる原

作其者に關していへるなれば、現代語譯によりて多く散文化せられたる譯本には其儘適用しがたきこと勿論なり。

此作を喜ぶ者、就中我邦人にして此作を喜ぶ者の多くは、二人者が熱烈なる戀愛關係の裡に、主として此作の蔗境を發見せんと期待するものゝ如し。アントニーの性格描寫がクレオパトラのそれに比して明かに幾籌かを輸する以上は、クレオパトラが感興の中心となるべきは自然の結果なれども、アントニー對シーザーの人格的^{コントラスト}反照に項王對

漢の高祖、義仲對賴朝を連想し、ポンペイ對^{トライヤキエユレイト}三執政の軍艦上の折衝に鴻門の會を連想するの感興もまた決して淺少なりと謂ふべからず。范增の穴を行く海賊の首領メネクラチーズが伊豫の掾純友に似たるも面白く、垓下の慨や、虞兮の歎や、烏江の敗や、またおのゝ其照應たるべきもの無きにあらず。試に男性的興味に重きを置きて此作を含味せんには、宛として一部漢楚軍談を読むが如き感興あらん。

十七八世紀の交、沙翁の諸作が復た次第に認識せられ

て舞臺に蘇生せしめらるゝに及びし頃にも、此作のみは全く等閑に附せられたりき。然るは彼のドライデンが此作を標本として新作せる *All for Love* (「世界をも戀故に」といへる類作が、一代の歓迎を博したりし故なり。即ち沙翁作の「アントニーとクレオパトラ」は其初演以來およそ百五十年間實演せらるゝの機を得ざりしなり。一七五九年に至りて、名優ガリック一座が初めて原作を上演せしが、これとても多くの省略と改修とを経たるものにて、世評將た芳^{かんば}しからざりしが如し。十九世紀に入りてはドライデンのと折衷にてマクリデーに演せられ、ほゞ原作の

まゝのにてホエルプスに演せられ、今のピヤボム・ツリーの如きも嘗て之を上場して其演出法に多大の新意を發揮せりき。然れども其餘りに長篇なると其場數の多きに過ぎたるのが累をなせるにや、舞臺上にて著しく成功せるの例は未だ聞かず。

大正四年五月下旬

譯者

登場人名

マーク・アントニー、

オクテギヤス・シーザー、

イミリヤス・レピダス、

セキスタス・ポムペイヤス。

ドミシヤス・エノバーバス。

エンチデイヤス、イロス、スカラス、ダアセタス、デメトリヤ
ス、フィロー

以上、アントニーの黨員。

登場人名

メシナス、アグリッパ、ドラベラ、プロキュレイヤス、シディヤス、ガラス。

以上、シーザーの黨員。

ミナス、メネクラチーズ、ヴーリヤス。

以上、ポンペイヤスの黨員。

トーラス、シーザーの副將。

カニディヤス、アントニーの副將。

シリヤス、エンチディヤスが部下の一將校。

ユーフロニヤス、アンニトーがシーザーへ遣せる使者。

アレキザス、

聞官マーディヤン、

ダイオミデイス、

クレオパトラの侍者。

セリユーカーカス、クレオパトラの財務官。

豫言者。

道化方。

クレオパトラ、埃及國の女王。

オクテギヤ、シーザーの姉にしてアントニーの妻。

チャーミヤン、

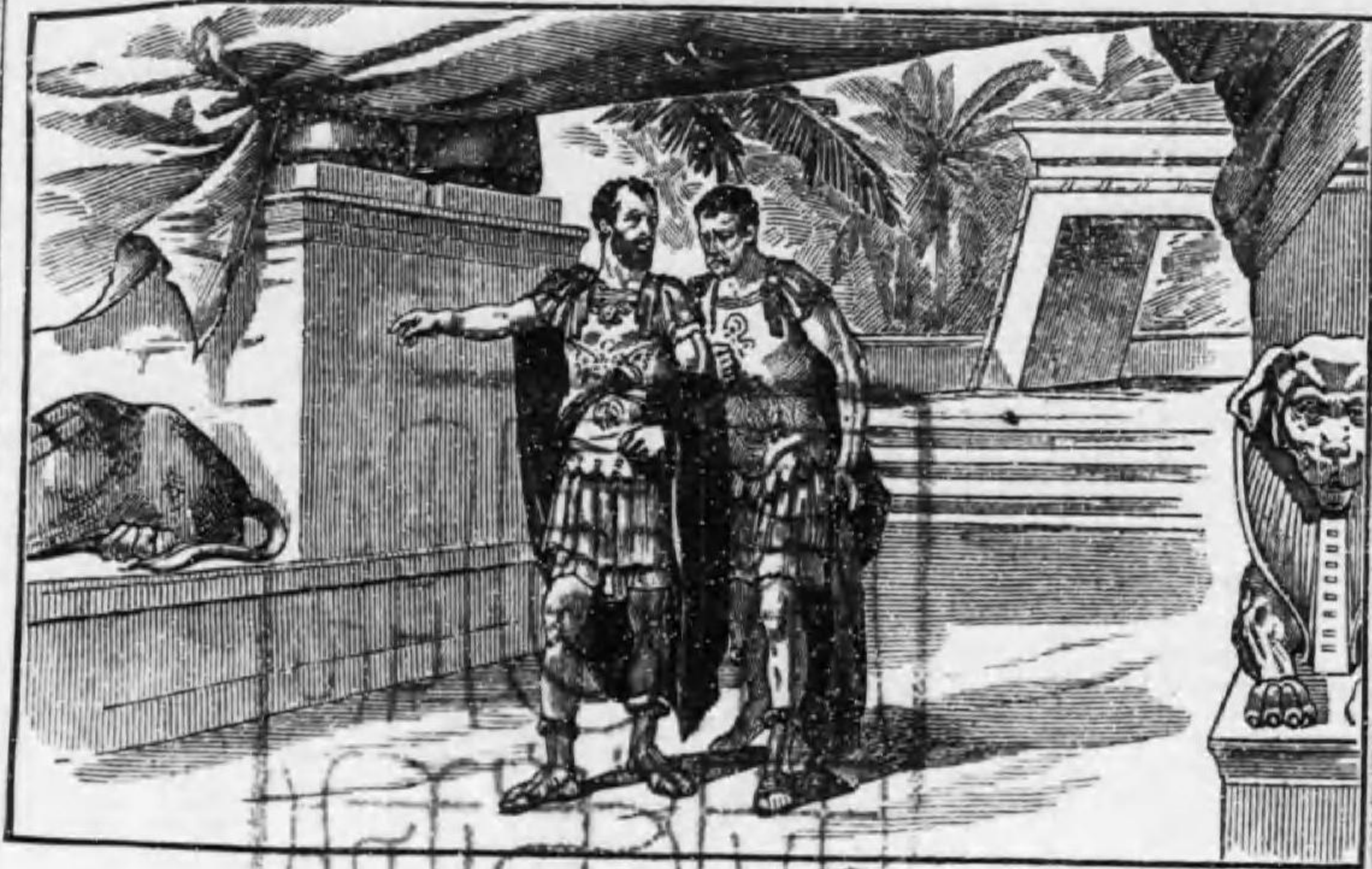
クレオパトラの侍女。

アイラス、

官吏、兵士、使者及び侍者等。

場處

羅馬帝國の種々の方面にて。



アントニーとクレオパトラ

第一幕

第一場 アレキサンドリヤ。クレ。

オパトラの宮殿の一室。

デメトリヤスとフィローと出て来る。

フィロ

いや、將軍の此度の感溺かたは滅法界
だ。千軍萬馬を睥睨して軍神の眼の



やうに光り輝いてゐたあの立派な目も、今ちや黄褐色の面ばかり見詰めてゐるのが役目だ。鎬を削る激しい戦ひに、胸の縮鐵を破裂させた彼の勇敢な心の臓も、今ちや羽目を脱して、埃及女の淫亂根性を吹冷す風櫃になつてしまつてゐる。……

喇叭の盛奏につれてアントニーとクレオパトラとは手を携へて、陪従の男女大勢と共に出て来る。女王の後へには數人の閣下官扇にて女王を扇ぎつゝ、従ふ。

あゝ、彼處へやつて来た。注意して御覽なされば、世界の三本柱が一淫婦の幫間になつてしまつたといふことが解ります。よう御覽なさい。

クレオ (アントニーに) 果して愛がお有りのなら、それが何程だか言うて御覽。

アント どれ程と計算が出来るやうな愛は愛の貧弱なのだ。

クレオ わたしやどの位愛されてゐるのか、其愛の範圍が知りたい。

アント それをするには、先づ新しい

天地から造へてかゝらんければなるまい。

侍者 侍者一人出て来る。

侍者 御前、羅馬からのお消息でござります。

アント うるさい。

アント 要點だけ。

クレオ いゝえ、アントニー。その使

ひの者にお會ひなさい。大

かたファルギヤどのが腹を

立てゝをられるのであらう。

でなくば、漸と髭の生えたシ



「ザーが、貴下へおそろしい命令を言うておこしたのかも知れぬ。斯うい
たせ、あゝいたせ、あの王國を取れ、此方のは赦してやれ。その通りにせぬ
と承知せんぞ！」

アント 何をいふのです！

クレオ 多分！ いゝえ、必然さうぢや。さア、シーザーのお召状が来たからは、も
う此處に逗留してゐてはなりません。アントニー、さ、早う其使者にお會
ひなさい。え、ファルギヤのお召状は何處に？ あゝ、シーザーのお召状と
いふの知らん？ それとも兩方から？ さ、早う其使ひに來た者共をお
呼びなさい。それ、アントニー、貴下の顔が赧うなつた。それがシー
ザーに降參の證據ぢや。で無くば、あの姦しいファルギヤに叱られて、濟ま
ぬくと詫びてゐるのぢや。……さア、使ひの者共を！

アント

羅馬はタイバーへ溶け込んでしまへ！ 堂々たる帝國の大弓形門も倒壊

してしまへ！ 此處が予の居處だ。王國と言つたつて、たかゞ土塊だ、掃
溜同様の此地球は、人間をも畜生をも同じやうに養ふ。人生の貴さは（と
クレオパトラを抱きて）ひとへに斯うするのに在る。相愛する兩性が、斯うい
ふ二人が、斯う相抱き相愛する境界こそ眞に無比無數だ、予はこの事を、嚴
罰を課しても、世間の者に承認させずにはおかん。

クレオ

（獨語のやうに）ま、巧妙な虚言者！ 情が無うて、あのファルギヤと如何して
夫婦になつたのであらう？ わざと愚者になつてゐませう。そのうちに
はアントニーが本性にお戻りだらう。

アント

さア、クレオパトラの爲に攪亂されなければだ。……さア、愛の享樂の
貴重などをお思ひなさい。つまらん爭論をして時を徒費るのは止めませ
う。生活の只一分時たりとも、今はお互ひに、不愉快に浪費すべき時では
ない。……ねえ、今夜は何をして遊ばう？

クレオ 使ひの者にお會ひなさい。

アント 困るよ、又お始めなさる！ が、貴女には何でも似あふ、叱るのも、笑ふの

も、泣くのも。喜怒哀樂、何でも貴女がすれば、美しく立派に見える！ 使

者には會はん、貴女の使者でなけりや。二人ツきりで、今夜街中を逍遙い

て、下民の様子を觀よう。さ、行きませう、貴女が昨夜それを望んだつけ。

……(侍者らに) 何にもいふな。

アントニーとクレオパトラとは手を携へ、陪従を従へて入る。

デメト 將軍は、こんなにしーザーを冷遇するのですか？

フィロ さ、折々、アントニー離れのした時分にはね。時々、將軍は、なくしちやな

らない立派な本性をどうかしてしまはれるのです。

デメト どうも残念なことだ、本國に流布してゐる浮説が、どうやら事實になりさ

うだ。しかし明日になつたら、或は大將の様子が變るかも知れない……

御機嫌よう！

二人とも入る。

第二場 同處。他の一室。

侍女チャーミヤンとアイラス、侍者アレキザス、及び豫言者出て來る。

チャー アレキザスさま、アレキザスさん、アレキザスのお殿さま、アレキザスさま、

さま、さま、豫言者は何處にゐます、貴下があんなに女王さまに御推舉なす

つた豫言者てのは？ あゝ、わたし夫になる人といふのが知りたいのよ、

花輪の代りに角を載けなけりやならないと貴下の言つた其人がさ。

アレキ おい、豫言者！

豫言 はい 御用向は？

チャー おや、此人ですの？ ……何でも知つてゐなるといふ人はお前さんなのですか？

豫言 限りなく不可思議な造化の書物を、わしはほんの少しばかり読み得まする。

アレキ (チャーミヤンに)あの仁に手を見てお貰ひなさい。

エノバース 出て来る。

エノバ (奥に向ひて) さア、早く饗應を持つて来い。酒を持つて来い、酒を、女王の健康を祝するのだ。

チャー (豫言者に) ねえ、先生、好い運を下さいね。

豫言 献げるわけにはゆかん、中てまするだけぢや。

チャー ぢや、わたしの運を中て、下さい。

豫言 貴女は、今よりもすつとうるはしくおなりです。

チャー (アイラスに) 顔の色のこととせうね。

アイラ なアに、年をお取りだとお化粧をせにやならないでせう、それだからですよ。

チャー おや、鶴龜々々！ 皺くちやなんか眞平よ！

アレキ 豫言の邪魔をしてはいけない。黙つて。

チャー 叱！

豫言 (チャーミヤンに) 貴女は可愛がられるよりも可愛がる方へ廻るお人ぢや。

チャー あら、ま、わたしや意氣事よりも飲みたい方だのにねえ。

アレキ これさ、黙つて。

チャー さア、何か好い運をね！ お晝前に三人ほどの王さまの處へ嫁入をさせて、さうしてみんな先へ逝かせてしまつて下さい。それから五十の時に、猶太王のヘロッドさんだつて降参するやうな偉い兒を一人生ませて下さい。それからオクテギヤスさんと夫婦になるといふ手の筋を見つけて、わたしを

女王さまと同輩にして下さい。

豫言 貴女は御主人の御方さんよりも長生をします。

チャール 啊ら、上等！ 無花果の尻尾よりは長生の方が結構ですからね。

豫言 將來のよりも今までの運の方がずつとお立派であつたのぢや。

チャール ぢや、これから産まれるのは名も附かないのか知らん。ねえ、もう幾人ぐらゐる産むのです、男の子や女の子を？

豫言 懐胎したいと思はつしやるたびに懐胎し、懐胎するたびに産まつしやると、

……百萬人ぐらゐる。

チャール 啊ら、人を……が、とにかくお前さんは魔法使ひぢやないらしいわ。……

アレキ みんな運命を知りたがつてゐるのだ。

エノバ 子の運命も、大概の奴等の運命も、今夜は爛酔つて眠てしまふといふのだ。

アイラ

(手をさし出して) さ、これは清淨潔白てことを豫言してる手なのよ、他の事はどうあらうともね。

チャール

さうよ、ちやうどナイル河の水の溢れるのが、物の實らない前兆であるやうにね。(と笑ふ)。

アイラ

お黙り、お狂さん、お前さんは豫言者ぢやないことよ。

チャール

いゝえ、掌の脂ぎつてゐる人は子福者だぐらゐることが解らないやうぢや自分の耳だつて搔けやしないわ。……(豫言者に)あの女には平凡の運を豫言しておやりなさい。

豫言

貴女がたのは似たりよつたりぢや。

アイラ

だつて如何？ 如何似て？ くはしいことを言つて下さい。

豫言

もう言うてしまひましたのぢや。

チャール

貴女の運が、假にわたしのより一寸分だけ上等だとすると、貴女は何處で

一寸だけ殖やすの？

アイラ まさかね、夫の鼻の高さなんか殖しやしませんよ。

チャー もう／＼鶴龜々々！……さ、アレキザスさんの、(豫言者に)ね、あの男の運を中て、御覽よ、あの男のを……お、國土神さま、どうぞあの仁には子を産みません女がお内儀になりますやう！ そのお内儀は直死まして尙不可いのおお内儀になりますやうに！ さうして段々と不可いのおお内儀になります、其最ち不可いのが、五十たび目の間男をしまして、あの仁がお慕へ入りますのを笑ひながら見送りますやう！ 國土神さま、どうぞこれだけはお叶へ下さいまし、よしんば他の大切な願ひは叶ひませんでも。ア
イシスさま、どうぞ！

アイラ アーメン！ 女神さま、どうぞ此一同の願ひをお聴下さいまし！ 好い男がお内儀に悪い事をされてゐるのを見てゐるのも、誠に／＼氣の毒でござ

ざいますけれども、厭アな男が間男もされずにゐるのを見るのも、非常に残念でございますから。ですから國土神さま、どうぞ見ともなくございませんやうに、よろしく御運配りを願ひます！

チャー アーメン！

アレキ やれ／＼、此様子ぢや、あの手合は、自分達が淫賣になつてまでも、おれを間男される男にしかねまいわい！

エノバ 叱！ アントニーどのが來られたぞ。

チャー いゝえ、女王さまよ。

クレオパトラ 出て來る。

クレオ 御前に逢うたかい？

エノバ いゝえ、逢ひません。

クレオ こゝへは見えなんだかい？

チャー いゝえ、お見えになりません。

クレオ 先刻、輿を催しかけてをられたのぢやが、急に何か羅馬の事で心配事が出来たらしい。……エノバールバス！

エノバ 御前。

クレオ 搜して、此處へ伴れて来て下さい。……アレキザスは何處にゐます？

アレキ こゝにをります。御用は？……お、御前がお見えになりました。

クレオ わしは逢ひますまい。附いておいで。

皆々をつれて入る。

アントニー 羅馬よりの一使者と侍者らとを随へて出て来る。

使者 御内室のファルギヤどのが眞先に御出陣なされたのでござります。

アント 予の弟のルシヤスを攻めるために？

使者 さやうでござります。が、その戦争は直に終りました、時局がお二人を親

和せしめたのでござります。すなはち兵力をお合せになつてシーザーをお攻になりましたが、シーザーは首尾よく伊太利の地方征伐を了つて凱旋しまして、第一戦でお二人を敗りました。

アント で、最も悪い報道は？

使者 悪い報道は、とかく報道者に祟るもので。

アント 聞く當人が馬鹿か臆病者であればだ。後を言へ。過ぎた事は、予に取つては過ぎた事だ。斯うだ、よしんば死を齎すやうな報道であつても、事實であれば、予はそれを世辭のやうに思つて聞く。

使者 ラビエナスが……これは申しにくいこととござりますが……部下のパーシヤ兵をひきゐまして、ユーフラチスから亞細亞へと侵略いたしました。勝誇つた彼れが軍旗はシリヤからリディア、アイオニヤあたりまでをも震ひ動しました。然るに……

アント アントニーは、と言ふつもりだらう。

使者 あゝ、どうもこれは！

アント 遠慮なく言ふが可い、世間で言つてゐることを和らげるには及ばん。クレオパトラの異名も羅馬で言ひ觸らしてゐる通りに呼べ。ファルギヤの口吻で罵るが可い。事實や悪意が發表し得る限りの子の過失を少しも假借せず嘲つてくれ。嗚呼、精神の働きが不活潑になるといふと、心に毒草が生茂る。わが悪を告げられるのは耕し耘るのに當る……暫く休んでをれ。

使者 かしこまりました。

使者 入る。

アント やい、シ、オンからの知らせは？ こりや！

乙侍者 シ、オンから参つたとかいふものがゐるか？

甲侍者 (アントニーに) 御意をお待申してをります。

アント こゝへ呼べ……(傍白) 此岩疊な埃及の桎梏を叩き摧かないと、予は惑溺の

爲に一身を誤つてしまふ……

第二の使者 出て来る。

汝の知らせは何だ？

第二使 御内室のファルギヤどのお亡りになりました。

アント 何處で死んだのだ？

第二使 シ、オンで……御病氣の経過、其他御承知置を願はねばなりません重要な

件は總てこれにござります。

書状を渡す。

アント 控へておてくれ……

第二の使者 入る。

あゝ、偉大な精神が逝つてしまつた！ 實は斯うなるのを願つてゐたのだ。

賤み憎んで度々拋出したものをも、後では復取戻したく思ふ。今愉快に思ふことも變轉して興が醒めると、其反對の苦痛となる。居なくなつて見ると、彼女は善い女だ。此手で排斥したのであつたが、あゝ、出来るものなら引戻したい。……是非ともあの妖婦と手を断らねばならん。此だらしのない生活の中から、曾て經驗しない無数の弊害が生れて来る。……おいしく！

エノパーバス！

エノパーバス 又出る。

エノバ

何か御用でござりますか？

アント

予は急に此處を出立せねばならん。

エノバ

では女連を皆殺しにすることになりませう、女て者は酷く扱ると死にかねませんから。棄て、出立なさるやうだと、きつと人死騒ぎです。

アント

是非とも行かなければならん。

エノバ

止むを得なければ女連を死なせませうよ、只もん目で棄殺しにするのは憫然だが、重大な目的に比べりやア奴等は只もん目も同様なものですから。此噂を聞いたばかりでも、クレオパトラさんは直に悶絶と來ますよ。何でもないことで、彼女が悶絶と來たのを、わたしは二十度も見ましたからね。死神て奴は、或は何か斯う好いたらしい作用をするのかも知れませんが、彼女は、何かといふと、すぐに死たがるんですから。

アント

あいつは、思ひも及ばないほど、手管のある奴だ。

エノバ

とんだ事です。あの女が哭いたり怒つたりするのは、ありや全く純粋の愛情からするのです。あの大風や大雨を溜息だとか涙だとか呼ぶ譯にはいきません。ありや唇にも載つてゐないやうな大雷雨、大颶風なのです。ありや手管ぢやない。あれが手管なら、あの女は雷神同様に、雨を降らせる力があるのだ。

アント あんな女に逢はなければよかつた!

エノバ いや、若しさうだと、貴下は不思議な一名物を見ずじまひになさるとこたつたのだ。あれを拜まないで歸つちや旅をした甲斐がないといふものです。

アント ファルギヤは死んでしまつた。

エノバ え?

アント ファルギヤは死んでしまつたよ。

エノバ ファルギヤさんが!

アント 死んでしまつた。

エノバ ちや、神さま達へお禮の供物をお献げなさい。神さまが人間の妻女をお取上なさるのは、さしづめ下界の裁縫屋といふ役廻りです、古い衣服が破れたからつて心配をするな、新しい服地は幾らもあるよと慰めてゐなさるの

です。ファルギヤさん以外に女て者がなかつたら、貴下は截然やられたことになるんだから、御愁傷なさるべきだが、ちやんと慰藉が伴つてゐる。古い女襦袢が破れたお庇で、新しい腰巻がお手に入つたといふものだ。こんな事に出る涙は玉葱で出来る涙です。

アント 妻が本國で發端めた事件の爲に、おれは如何しても歸つて行かなくてはならん。

エノバ 處が、貴下が此處で發端めた事件が如何しても貴下を離しませんよ。殊にクレオパトラさんと來ちや、一日だつて貴下と離れちやゐられないのです。

アント もう戲談は止せ。將校らに予の決心を通告してくれ。予は女王に急に出立つる理由を知らせて、暇乞をしよう。ファルギヤの病死、其他緊急な事件が歸國を要求するばかりではない、吾々の爲を圖つてゐる羅馬の黨員らもまた予の歸國を望んでゐるのだ。セキスタス・ポンペイヤスは、已にシー

ザーに戦ひを宣して、今現に海上の全權を握つてゐる、浮薄な公衆らは、
 …人と共に其功勞の過去らない以上其人を愛することをせぬ公衆らは、…大
 ポンペイの名譽其他を、もう既に其子の ポンペイヤスに投げ與へようとし
 てゐる。奴は、名聲も權力もある上に、勇氣もあり元氣もあるので、大英雄
 らしく擬勢を張つてゐる。うつちやつておくと、どんな國家の大患となる
 かも知れない。種々の事が育ちかけてゐる。それは、今は尙水中の馬毛
 に過ぎないのだが、棄て、おけば毒蛇になる。部下の者に、すぐに立出
 るといふ子の命令だと傳へてくれ。

エノバ

承知しました。

入る。

第三場 同處。他の一室。

クレオパトラ、チャーミヤン、アイラス及びアレキザス出て来る。

クレオ

何處にをられるのぢや？

チャー

あれからお見受申さないのでござります。

クレオ

(アレキザスに)何處で、だれと一しよに、何をしてをられるか、見て来てくれ。
 が、吩咐けられて行くのではありませんぞ。もし憐いでをられたら、わし
 は踊つてゐるとお言ひ、もし嬉しうな様子であつたら、わしは急病ぢや
 とお言ひ。速く往つて、すぐ戻つて来るのぢや。

アレキザス 入る。

チャー

御前、私存じますに、もし御前が眞實あのお方にお可愛がられ遊ばさうと

いふ思召なら、御前のなされかたは、どうやら正當でないやうに存せられます。

クレオ では如何すればよいのぢや？

チャー 萬事あのお方の御意通りに遊ばしませ、お逆ひ遊ばさないがようございませす。

クレオ 愚者めいた事を教へる人ぢや。さうすれば必然厭れてしまふ。

チャー でもあんまりお挑戦ひ遊ばすのはようございませぬ。大概に遊ばしませな。遠慮が要るやうになりますと、つい嫌ひもし憎みもするのが人情でございませすから。……おや、アントニーさまがお見えになりました。

アントニー 出る。

クレオ (チャーミヤンに、しかしアントニーに聞えるやうに) わたしや今日は氣分がわるいから、焦々してならない。

アント 甚だ申しにくい事だが、お話爲なければならん……

クレオ チャーミヤンや、あちらへ伴れて行つとくれ、目が眩うて倒れさうぢや。迎も最早長くは斯うしてゐられさうにない、あゝもう身體が裂けてしまひさうぢや。

アント 女王よ、えゝ實は……

クレオ えゝすつと離れてゐて下さい。

アント 如何したのです？

クレオ 何か吉い左右があるのぢやといふことは、それ其目附で知れてゐる。御本妻殿が何を言うておこされました？ さ、お歸りなさい。……初めから此處へ來る許可なぞを夫に與らねば可いのに！……わしが留めてゝもゐるやうに思はれてはならん。わしには如何する力もありはせぬのぢや。貴下はあの女の有ぢや。

アント 神に誓つて、わたしは……

クレオ お、昔から女王の身で、これほど怖しう欺された例があらうか！……
けれども始めから一心ちやといふことは知れてゐたのぢや。

アント いや、クレオバトラ……

クレオ 貴下がわたしに忠實であらう筈がない、たとひ神々の御座を震動させるほどの強い誓言をなされたとても……：ファルギヤに對して不實であつたのを考へて見ると。あゝ、わたしや氣ちがひめいてゐた、誓言する其口の下から、それを破るやうな誓言を信じてゐたのは！

アント まアさ女王……

クレオ いゝえ、國へお歸りの爲の口實は聴くに及びません。只「さやうなら」と言うてお立ち。逗留を願うてゐなされた時分にはお互ひに言ひたいともあつた、歸るなぞいふとは、其時分には假にもなく、二人の目や唇には永劫

が宿り、二人の眉根には天福が宿つてゐた。二人の身に附いたものは、一つとして、わたしらが天上の種屬であることを證據立てゝゐぬものはなかつた。今でもさうなのぢや。で無くば、世界の大英雄であつたお前が大虚言者に變つてしまつたのぢや。

アント これさ、どうしたんです？

クレオ あゝ、わたしやお前だけの丈が欲しい。さうすりや埃及王には勇氣があるといふことを見せつけてやるものを！

アント まアお聴きなさい。刻下の據ない急務の爲に、暫時の間歸國はするが、併しわしの此溢るゝばかりの眞情は悉く貴女に預けて行く。本國伊太利は、内亂の劍の光りで燦きわたり、セキスタス・ボンベイヤスは最早既に羅馬の港口まで攻寄せてゐる。國內の二黨派が、権力相如く時には、其旗色を見てゐる黨派が出来るものである。又、憎まれてゐた者も、一たび勢ひ

が強大になるといふと、新に人望を得るに至る。で、罪人であつたポンペイヤスが、其父の名譽を頭に戴いて、現政府に志を得ないでゐた者共の心を追々に收攬して、今ではそれが中々侮るべからざる多数となつてゐる。それに久しい間平和に倦み、無爲に苦しんでゐた奴等が、何でもよいから狂激な變化によつて積弊の大掃除をしようと望んでゐる。それから特にわしの身に關した事で、此出立を貴女に安心させるだらうと思ふ事は、ファルギヤが死んだといふ事です。

クレオ

わたしや此齡になつても、浮氣はまだ止まぬけれども、子供らしい氣だけは最早とうに無うなつてゐる。ファルギヤどのが死ぬ筈はない。

アント

いや、死にました。これを御覽。(書簡を渡して)彼女がどういふ騒動を起したかを御間暇にお讀みなさい。……最後に最上等の報道を、何時、何處で彼女が死んだかを。

クレオ

おゝま、何といふ薄情な人ぢや！ 哀悼の涙で充滿にせにやならぬ筈の神聖に壺は、ま何處に置いてあるのぢや？ あゝ、解つた、ファルギヤが死なつたのは餘所事ではない、わたしが死んだ際の事もこれで解つた。

アント

もう何卒争論ふのは止めて、わたしの言ふことを聴く氣になつて下さい。貴女の意見次第で止めるとも如何ともする。ナイル河の粘泥を沃土にする其大日輪を誓にかけて、わたしは貴女の武士、貴女の家來といふ資格で出陣するのだ。和睦もすれば戦もする、貴女の好み次第で。

クレオ

(胸苦しげに)切つとくれ此胸紐を、チャーミヤンや、さ早く。……いゝえ、棄てていとくれ。わたしや直に氣分がわるうなつたり、快うなつたりする、アントニーどの、仕向次第で。

アント

女王よ、ま忍耐して、わたしを信じて、實があるかないか試験して見て下さい。

クレオ ファルギヤが丁度その通りの事を言ひました。どうぞ彼方向になつて彼女
の爲にお泣きなさい、さうしてわたしに暇乞をして、これは女王の爲に泣
いたのぢやとお言ひなさい。さ、上手に芝居をして見せて下さい、どう見
ても全く誠實らしう見えるやうに。

アント 終には腹を立てますぞ。もうお止しなさい。

クレオ もそつと貴下は上手な筈ぢやが……中々巧いけれど。

アント 此帯剣に誓ひを掛けて……

クレオ それから楯にも……(侍女らに)だんく仕草が巧うなつて来た、けれどもあ
りやまだ奥の手ではないのぢや。御覽よ、チャーミヤン、ハーキュレスの子
孫の羅馬人だけに、腹を立てる所作がよく似合ふなう。

アント わしは最早お別れしますぞ。

クレオ しばらくお待ち下さい。……え、貴下とわたしとはお別れをせねばなりません

……が、それを言はうといふのではありません。え、貴下とわたしとは
互ひに相愛してゐたのぢや……が、それを言はうといふのではありません、
それは貴下がとうによう知つておいでの事ぢや。あ、何やら言ひたいこ
とがあつたのぢやが……あ、わたし此健忘性は、取りも直さずアント
ニーどのぢや。わたしは全然忘れられてしまつたのぢや。

アント 遊び半分にははいもない真似をなされるのだと思はなければ、貴女を真正
にたはいもない人だと思ひかねませんぞ。

クレオ たはいもない遊びも、クレオバトラのやうに一心になつてしてゐると、汗
が出るほどの苦しみぢや。が、堪忍して下さい、貴下の氣に入らなければ、
自身の目によく見えることも苦痛の種ぢや。貴下の面目が貴下の歸國を
要求してゐる。わたしの愚痴なんぞは思ひやつてゐるには及ばん、すぐお
立ち、御機嫌よう！ お前の其劍の上には月桂樹の勝利が來り留まるや

う！ お前の其脚下には滑かな成功が敷詰められるやう！

アント
ちや行かう。さ。……別れたとても、詰りは二人とも留まつてもをり、飛んでも行くのだ。貴女は、こゝに住ひながら、心はわしと一しよに行くし、わしも此處から飛出しながら、心は貴女と共に残つてゐる。……あちらへ！
皆々入る。

第四場 羅馬。シーザーの邸。

オクテギヤス・シーザー書状を讀みながら出る。その後につゞきてレビダス及び兩執政の從者共出る。

シーザ

レビダス、これでお解りになりましたらう。將來とても、御承知置を願ひたい、自分が、同僚たるあの豪傑を悪むのは、決して自分の狭量の爲ではないといふことを。(書面を示して)これがアレキサンドリヤからの報告です。彼れは漁をする、酒を飲む、徹夜の宴を催す。トレミーの妃のクレオパトラと、孰ちが男だか分らないくらゐ。使者をやつても殆ど引見もしなければ、同僚に對する義務をも責任をも忘れてゐるらしい。あれでは全然人間の陥るあらゆる過失を撮要してゐる男といふものです。

レビダ

わたしには、假令んば悪い事があるにしても、それがあの男の美所を悉く没却してしまふ程だとは思はれない。あの男の過失は、恰ど天上の星が、暗い夜には、尙と火のやうに見えるやうなものです。習得したのではなくつて、寧ろ遺傳なのだ。今更止める譯にはゆかないのです。

シーザ

貴下は寛大過ぎますよ。かりに彼れがトレミー家の閨房へ轉げ込んだの

は、不都合でないと思ませう、一宵の歡樂に代へて一王國を與へるのも可
 いと思ませう、又奴隸輩と頓飲の競争をするのも、白晝に街頭をよろめき
 歩くのも、汗臭い破落戸共と撲り合ひをするのも、それらは敢て不品行で
 はないと思ませう……さういふ事をして汚されたいといふ性格は、極め
 て稀なのですが……けれどもアントニーには到底其過失を辯解すること
 は出来んです、彼れの痴けた振舞は吾々に容易ならん損害を蒙らせたの
 ですから。若し單に其空虚な間暇を淫酒で充したといふばかりならば、其
 應報を腸胃病や骨髓病に一任しておいてもよいのですが、自分の爲にも、
 他の爲にも、速かに遊興を止めて歸國せねばならん大事件が轟き渡つてゐ
 る場合に、酒色に沈溺してゐるといふ不埒は、善惡を十分に心得てゐなが
 ら、其經驗を目前の快樂に代へて、理智に背叛した行ひをする不良少年を
 叱るやうに、罰せねばなりません。

使ひの者一人出で来る。

レビダ

何か又報告が来た。

使者

シーザー閣下、御命令通りに實行いたしましたから、國外の形勢に關しま
 する報告は、只今から刻々お手許に達するでござりませう。海に於けるポ
 ンペイの兵力は強大でござります。畏れてシーザーどのに従うてゐた者
 も、彼れには懐いてゐるらしいでござります。港々へ不平の徒が集りまして、
 彼れをば虐遇された人のやうに言ひ觸らしてをります。

シーザ

それらは略豫想してゐべきであつた。時めき榮える者が、時めくまでは囑
 望され、愛さるべき價値が跡形もなくなるまでは曾て愛されなかつた淪落
 者が、居なくなつた爲に可愛がられるといふ例は、古く時代から教へ馴
 された事であつたに。公衆といふ者は、譬へば水の面に漂うてゐる花菖蒲
 のやうなものぢや、潮合の變るにつれて行きつ戻りつして、終には空しく



腐敗つてしまふ。

第二の使ひのもの出て来る。

第二使

シーザーどのへ申上げます、有名な海賊のメネクラチスとミナスとが海上を占領しまして、あらゆる種類の船を以て縦横に往来いたしをります。又伊太利國內へ屢々猛烈な強襲を行ひます。海濱の住民等はそれを怖れて色を失ひ、血氣盛んの青年らは競つて謀叛します。

船共は、かりにも顔を出しますと、見附かるや否や奪られてしまひます。ポンペイといふ名前が、其兵力の實効以上に、人心を威嚇するのでござります。

シーザ

アントニーよ、速かに淫酒を撤回して歸國なさい。曾てお前が、彼の執政のヒルシヤスやパンサを討取つたモデイナ地方で、戦争に敗けて退却した時分に、途々饑饉といふ大敵が附纏つた、然るにお前は、贅澤に育つた身であるにも係らず、野蠻でも忍び得ないやうな場合をもよう忍耐して、其大敵と戦つた。馬の便をも飲めば、獸類さへ吐してしまひさうな青みどろの充つた溜水をも飲んだ。極めて穢らしい生垣に生つてゐる極めて不味い果をもお前は其際甘んじて食つた。いや、雪の牧場の牡鹿のやうに樹の皮をすらも咬んだのぢや。アルプス山では、或者は只見たばかりで死んだとかいふ奇怪な生肉を、お前は食うたさうぢや。さういふ艱難をさへも……

今之をいふのは、お前の不名譽になるばかりぢやが……如何にも武人らしく忍耐して、頬に瘦さへも見せなかつたものぢや。

レビダ まことに氣の毒なことだ。

シーザ みづから恥ぢて速かに歸つて來さうなものぢや。とにかく我々二人は直さま出陣するのが當然であるから、その爲に即刻戦略會議を開きませう。こちららが手を束ねてゐるので、ボンベイが勢力を得るのです。

レビダ 明日になれば、目下の必要に應ずるために、わたしの手で、海陸およそ何位の兵備を調べ得るか、正確にお知らせすることが出来ませう。

シーザ わたしとても御同様です……御機嫌よう。

レビダ さやうなら御機嫌よう。尙それまでに國外の動靜についてお聞込の事がありましたら、お知らせを願ひます。

シーザ 必ず申入れませう、お約束は違へますまい。

はひ
入る。

第五場 アレキササンドリヤ。クレオパトラの宮殿。

クレオパトラ、チャーミヤン、アイラス及び閣官マーティヤン出る。

クレオ チャーミヤン！

チャー 御前？

クレオ 嗚呼々々……わたしに蔓陀羅華を飲ませとくれ。

チャー ま、何故でございませう？

クレオ わたしやアントニーの居られない此長い間を眠てしまつてゐたい。

チャー 貴女は餘りあのお方の事ばかりお思ひ遊ばしていらつしやいますのよ。

クレオ おや、おのしは裏切するのかい！

チャー いゝえ、どういたしまして。

クレオ やい、宦官、マーディヤン！

マーデ へい、何か御用でござりまするか？

クレオ 歌を歌うてくれといふのではない。宦官の爲得ること、予が好もしいと思ふことは一つもない。汝は除性されてゐるから、外國までも飛んで行くやうな放埒な根性は萌さんで、氣樂ぢやなう。汝にでも情はあるのか？

マーデ へい、ござります。

クレオ え、實際？

マーデ いえ、實際には、無妻でござりますので、その何でござりますが、情だけは具へてをりますから、ギナスと軍神の一條の如きも、へい、會得いたしてをります。

クレオ

おゝ、チャーミヤンや、汝は今あの仁が何處に何をしてゐるとお思ひぢや？
立つてゐるのであらうか？ 腰を掛けてゐるのであらうか？ 歩いてゐるのか知らん。馬に乗つてゐるのか知らん。あゝ、幸福な馬め、アントニ―をおのが脊に載せるとは！ やい、馬、立派に働きをれ！ 汝は、今載せて歩いてゐる其人をだれぢやと思ふ？ 此世界の半分を一人で脊負うてゐる英雄ぢやぞ、其人は人間の冠冕でもあり、兜でもあるのぢや。今、恰ど何か言うてゐるところぢや、「大ナイル河の予の蛇は何處にゐる」なんぞと、言うてゐるかも知れん、いつも予をさういうて呼ぶのぢやもの。……あゝ、こりや旨い毒を嘗めてゐるのぢや。……わしの事を思つてゐるか知らん、日神に可愛がられ過ぎて、このやうに色が黒うなつて、さうして皺まで出来て来た予の事を？ 額の廣いシーザー、あゝ、お前がまだ此世にゐた時分には、わしは帝王の御料品であつたのぢや。あの豪傑のポンペイも予を見

ると、錨を下したやうに、立縮になつてしまつて、死ぬまでも詠め明さうとした、予をおのが命とも思つて。

アレキザス 出る。

アレキ 埃及の大君さま、御機嫌よろしう！

クレオ 何といふ違ひかたぢや、汝とアントニーとでは！ けれども彼仁から来た

だけに、幾らか其餘光で光つて見える。……此方のマーク・アントニーのは何如してをられる？

アレキ 此眞珠をば……それは既に幾度もなされたことでござりますが……特に

最近に接吻なされまして、其際申されました言葉が今でも此胸に附著いてをります。

クレオ 是非それをそこから引抜いて此耳へ入れてくれい。

アレキ アントニーどのの仰せには「其方參つて、大埃及女王へ眞實な羅馬人が牡

蠣の寶珠を贈り奉ると言うてくれ。品が輕少であるから、別に若干の王國を献上して、賑かな女王の御座を更に立派にしようと思ふ。すなはち、東方全土は將來は女王の御領地であるとする言へ、と仰せられました、お點頭になつて、さて嚴然として、誇り立つお馬に跨らせられました、お馬がおそろしく嘶きをりましたので、手前の申さうといたした事は滅茶苦茶にされてしまひました。

クレオ え、陰氣さうにしてをられたか、又は陽氣さうであつたか？

アレキ さ、暑いと寒いとの兩極端の、恰ど間の時候といふ風でござりまして、陰氣でもなければ陽氣でもないやうにお見受け申しました。

クレオ あゝ、善う釣合の取れた性質！ なう、チャーミヤンや考へて見て御覽、それが即ち彼仁の本來なのぢや。よう考へて見て御覽。陰氣ではなかつたげな。といふのは、部下の者が大將の顔色を模範にするによつて、彼等の氣

を引立てよう爲ぢや。けれども陽氣さうでもなかつた、それは本心が一番好きな者と共に此埃及に残つてゐるといふ證據なのぢや。で、どちら附かず。嗚呼、天人のやうな、程らひを得た性質！ 鬱いでも、浮かれても、それがどれほど極端であつても、お前にはよく似あふ。逆も他の者に望まれることではない。……わしが遣つた使ひの者に逢ひましたか？

アンキ
へい、二十たびも別々のお使者に逢ひました。なせあのやうに度々お遣しになりまする？

クレオ
わしがアントニーどのへ使ひを遣るのを忘れた日に生れる奴は宿無しになつて死ぬであらう。……チャーミヤンや、墨汁と紙を。……アンキザスよ、う來てくれました。……チャーミヤンや、シーザーだつても、わしや如是に懐しがつてはゐなかつたであらう。

チャー
あゝ、あのお立派なく、シーザーさま！

クレオ
二度とそんなに力瘤を入れて言ふと聞きません お立派なアントニーさまとお言ひ。

チャー
ほんたうに勇敢なシーザーさま！

クレオ
えゝ、ほんに酷い目にあはせませうぞ、シーザーをわたしの大切な仁と比べたりなんぞすると。

チャー
どうぞ眞平御免下さいまし、只つい貴女のお口眞似をいたしたのでございます。

クレオ
ありやわしの、まだ分別の青かつた生菜の頃ぢや。あの頃にわしが言うたことを今更口眞似するとは汝は人がわるい。さ、あちへ行かう。墨汁と紙を取つて來てくれい。……埃及の人種をなうしてもよいから、毎日々々別の使ひを遣つてアントニーどの、安否を聞かう。

入る。

ポンベ けれども、徒らに祈つてゐる間に、祈る其目的物が腐つてしまふ。

メネク しかし吾々人間は、自分を知らんから、どうかすると己が害になることを請願する、それをば賢明な神々は吾々の爲を思つて容易に與れない。そこで目的は遂げられない、が、それが却つて吾々の利益になるのです。

ポンベ 多分うまく行くだらうと思ふ。公衆はおれを愛してゐるし、海はおれの有だし、兵力は日増しに大きくなつてゆくから、今に満月の如くになるだらうと豫想される。マーク・アントニーは埃及で宴會の最中だ、戶外へ出て戦争なんか爲さうにない。シーザーは錢を得るのに骨を折つて人望を失してゐる。レビダスは二人に諛つて又二人に諛はれてゐる、が、其實、どちらもをも愛しちやゐない、又愛されてもゐない。

メナス シーザーとレビダスとは最早出陣しました。容易ならん兵力をひきゐてゐますぜ。

ポンベ 何處でお聞きなすつた？ そりや虚報だ。

メナス シルギヤスに聞きました。

ポンベ 奴夢を見てゐるのだ。彼等は二人ともアントニーの歸るのを待ちつゝ、羅馬にゐる筈だ……が、好色者のクレオパトラよ、どうか有りつたけの戀の魔術を使つて、おぬしの羨びかけた唇をふつくらさせて、美と媚と邪淫との力で、あの蕩樂者を酒池肉林へ縛り附けて、奴の腦髓を酒の湯氣で煙立たせてくれ！ 贅澤料理の秘術を盡して彼奴の食慾を鈍らせないやうに、壓かせないやうにしてくれ、眠ると食ふとの一點張で廉恥心の作用がなまつて、果は自分といふことをも忘れてしまふまでに！……

グーリヤス 出る。

や、グーリヤスか！

グーリ これは確かなお報知でござりますぞ。マーク・アントニーは今にも羅馬へ

著くだらうと待設けられてゐます。埃及を立つて以來、最早とうに著せねばならん日取になつてゐるのです。

ホンベ　もう少し都合の宜い報告が聞きたかつた。……メナス、おれはあの放蕩者が如是小戦争に兜を被らうとは思はなかつた。奴の武人としての資格は他の二人の倍だ。が、つまりこれは我黨の名譽だと思ふが可い、我黨が兵を起したので、流石の好色のアントニーも、埃及後家の膝を離れて飛出して來るのだ。

メナス　わたしは、シーザーとアントニーとが、和合しようとは思ひません。死んだ彼れの妻は、シーザーに不都合を働いたし、彼れの弟もまたシーザーに戦をしかけたのです、もつともそれはアントニーが教唆したのではないでせうが。

ホンベ　しかし、メナス、小さな反目は往々にして大きな反目の爲には忘れられる

習ひだから、何とも言へない。若し我黨が兵を起さなかつたならば、彼等三人は必ず相争つたに相違ない、互ひに劔を抜くべき理由を十分に貯へてゐるんだから。けれども我黨をば恐れるために、如何内輪割れを接合はせ、どう小破綻を補綴るか知れたものでない。それは神に一任するより外にしようもない！ 我々としては、只其出來るだけの力を揮ふべきだ。……さ、メナス。

ホンベ　先に立ちて入る。

第二場　羅馬。レビダスの宅。

エノバールパスとレビダスと出る。

レビダ エノパーパスさん、これは立派な仕事だ、君に取つて決して恥かしい仕事ぢやない、君のこの將軍に成るだけ穩和に口をきいてくれといつて頼むのは。

エノバ わたしは當人らしくおやんなさいッて頼みまさア。萬一シーザーが無禮なことを言やア、アントニーはシーザーの腦天を見下して軍神のやうに怒鳴るが可いです。もしわたしがアントニーであれば、あの髭を剃つて出掛けるだけの禮儀だつてもシーザーにはしませんや。

レビダ 今は私しの怨を論すべき時ではない。

エノバ 時に選びはありませんよ、癩に障りやア。

レビダ だつて、小さい事は大きい事の爲に讓歩しなければならん。

エノバ 小さい奴が先へ來りや然うはいきませんよ。

レビダ 君の言ふことは無茶だ。だがねえ、消えかゝつてゐるのを掻起しちやいか

んよ、……あゝ、アントニーどのが見えた。

一方よりアントニーとエンチデヤスと何か話しつゝ出る。

エノバ さうして、あそこへ、シーザーも見えた。

他方よりシーザー、メシナス及びアグリッパ出る。

アント 若し相談が纏まれば、我々はパーシャへ立つのだ……エンチデヤス、一寸。

アントニーとエンチデヤスとは一隅に立停りて何事か私語してゐる。

シーザ (メシナスに) さ、どうだか。それはアグリッパに聞いて見るが可い。

レビダは左右より近づくアントニーとシーザーとを出て迎へて

レビダ 兩君に申上げる、吾々を合體せしめた理由は極めて重大であつたのですから、小事の爲に分裂するやうな事は無いやうにしたい。何か不都合があつたら、互ひに穩かに協議することにしませう。些々たる異論を大聲で論判

するやうであると、手傷を癒さうとして一命を絶つことになる。御兩君、切にお願ひ申す、どうかお互ひに、痛み所へは、特にお手柔かにお觸りなさるやう、つまらん言葉の行違ひの爲に不快の感情をお加へなさらんやうに、よく言つて下すつた。陣頭に立つて戦ふのであつても、わたしは斯うする。

進みてシーザーの手を取る。途端に奥にて喇叭を吹鳴らす。

シーザ よくこそお歸りなされた。

アント ありがたう。

シーザ 先づお掛けなさい。

アント 貴下から。

シーザ では。

二人席に著く。

アント 聞く所によると、貴下はさもない事を、又はあるにしても貴下には無關係の事を、悪く取つておいでなさるやうだ。

シーザ わたしは世の物笑にならんければならん、若し故なくして、或は些細な理由の爲に、殊に貴下に對して、不平がましい事を口にするやうであつたら。就中、わたしに何の利害の關係もない場合に、貴下の行動を非難するやうなことがあつたら、彌笑ひの種でありませう。

アント シーザ、わたしが埃及にゐるといふことが、貴下に如何いふ利害の關係がありますか？

シーザ わたしが羅馬にゐるといふ事が、埃及にゐる貴下に何の利害もないと同じに、何の關係もないのです。が、若し貴下が何かわたしの存在に影響を及ぼすやうな事を彼地で企てられた時分には、貴下が埃及にゐるといふことが此方の問題になるのです。

アント どういふ意味です、企てるといふのは?

シーザ 其意味はほゞ御推察が出来さうなものです、此地でわたしの身に降りかゝつた事をお考へなされば。令聞と令弟とがわたしに對して兵を起されずさうして其主意は貴下の爲といふのであつた、貴下が開戦の口實であつたのです。

アント それは誤解です。弟は決してわたしを開戦の口實にはしなかつたのだ。

それは、篤と尋問に及んで、貴下と共に劍を抜いた或確かな手合からの報告で、事實を知つてゐます。寧ろ弟は、貴下に對するわたしの威信を害した譯ぢやありませんか? 且つまた予と貴下とが同志である以上、彼れの起した戦ひは、貴下の意志にも又予の意志にも反してゐるぢやありませんか? これは既に書面で辨解し盡したことです。貴下が……完全に纏まつた口實がないが爲……よしんばそれを綴合ぎになさるにしても、そ

シーザ れでは筋が立ちません。

貴下は自分を揚げて他を無分別のやうに貶めなさるけれど、貴下こそ綴合だらけの辨疏をしてゐるのです。

アント いや、さうでない。わたしは貴下の同僚であつて、現に共に力を合せて

戦争した位であつて見れば、おのが平和をも害するに至るあゝいふ暴舉をわたしが賛成の目を以て見る筈は無いといふことは、貴下がお察しなさんければならん筈だとわたしは思ふ。妻に關しては、試みにあゝいふ男まさりの女を娶つて御覽になることを望む。世界の三分の一を支配なさるのは一筋の細い手綱で馬を歩ませるやうに容易いが、あゝいふ女は中々御しにくいものです。

エノバ (獨自のやうに) みんながさういふ妻ばかり持つことになれば可い、さうすれば夫婦づれで出陣が出来る。

アント それほどに御しがたい女です、彼女の暴擧は、持前の疝癰の然らしめたのであつたのだが、悔りがたい策略が伴つてゐたから、非常に貴下に御迷惑を掛けたこと、お察し爲ます、しかしそれはわたしの如何することも出来なかつたことなのです。

シーザ わたしは貴下へ書面を送つた、アレキサンドリヤで盛んに御遊興の時に、貴下はそれを受取つたきりで、使ひの者には侮辱を加へ、引見もしないで、追出しておしまひなすつた。

アント いや、あの男は、許可を俟たんでわたしに面會しようとした。恰ど彼の時は、新たに三ヶ國の王を響應した際で、頭の具合が午前とは異つてゐた。が、翌日わたしが其事を彼の男に話した、それは詫びたも同様です。あの男の事なんかは此度の事件に無關係にしませう。喧嘩をするにしても、あの事は問題外にしよう。

シーザ 貴下は盟約の正文を破つた、わたしにさういふ事があつたとは、かりそめにも申されまい。

レビダ まあアノ、シーザー！

アント レビダス、おかまひなさるな。……今シーザーが言はうとしてをられる廉恥といふことは容易ならんことです、かりにもわたしがそれを缺如してゐるとすれば……シーザー、其後を。破つた盟約とは？

シーザ 必要の場合には武器及び援兵を送るといふ約束を貴下は履行することを否んだ。

アント 怠つたのです寧ろ。折あしく長夜の亂酔の爲に我れを忘れてゐたのです。爲し得る限りのお詫びは致しませう。わたしは道を守る爲に自分の威嚴を失ふやうなことも出来んが、道に背いてまでも權柄を維持しようとは思はない。要するに、わたしを埃及から引張り出さうとして、ファルギヤめが

亂を起したのです。それに對して、全くわたしの知らんことではあるが、かういふ場合にわたしの爲し得る限りのお詫びをします。

レビタ 實に立派な御辨解だ。

メシナ 失禮ながら、もう此位で御爭議をお止めになつては如何でせう。目下の急務が御兩君を調停しようとしてゐることを御記憶になりましたなら、過去の事は全くお忘れになることも出来ませう。

レビタ いや、メシナス、全く其通りです。

エノバ で無ければ、當分仲好しになることにして、ボンベイの噂がなくなつてしまつた時分に、また始めたら可いでせう。外に仕事がなくなれば、喧嘩ふ時間は幾らも出来ません。

アント 戦争以外の事を知らん癖に。黙つてろ。

エノバ はい、眞實の事は言はないが可いて事を、つい忘れてゐた。

アレト 汝が口をきくと諸君へ失禮になる。だから黙つてろ。

エノバ おやく。ちや、これからは石の像だ。

シーザ いひ方こそわるけれ、あの男の申すことは道理だと思ひます。何故なれば、お互ひの性質が斯く相背いてゐる以上は、おそらく長く交誼を續けることはむづかしいであらう。しかしお互ひを緊密に抱合はす筈なぞが有るものなら、世界の端から端までも捜して見て手に入りたい。

アグリ シーザー、發言をお許し下されたい、……

シーザ アグリッパ、御遠慮なく。

アグリ 貴殿には母御の御血統に姉御さんがおありなさる、人の賞めるオクテギヤどのです。ところで、マーク・アントニーどのは目下獨身でをられます。

シーザ これさ、アグリッパ。そんな粗忽なことを申されたのが、クレオパトラに聞えでもすると、とんだ怨みを受けませうぞ。

アント シーザー、わたしには妻はありません。アグリッパの御意見を尙くはしく承はりたい。

アグリ 御兩君が永久に親和せられ、兄弟の仲らひとなつて、ほどけない紐で二つの心をつなひ合はされる爲に、アントニーどのがオクタヴィヤどのを娶られるのを望みます。あの婦人の美は最も卓越した人傑を夫とするの権利を有してゐます。あの婦人の才徳其他は、他の婦人の誇る能はざる長所を具へてゐます。此御結婚が調ひますれば、今は大きく見えるあらゆる小さい猜疑、今は危険性を帯んで見えるあらゆる大きな恐怖が、何でもないことになつてしまひませう。事實も虚説となりませう、今は半分虚の事までが事實になつてゐます。オクタヴィヤどの、兩君に於ける愛情が媒介となつて、兩君の友誼も加はり、而うして衆人の愛はまた兩君に集りませう。失禮の言をお赦し下さい。これは決して當座の思ひ附でなく、國家の爲に熟

慮を費した結果なのでございます。

アント シーザーの意見は？

シーザ 只今の提案に對するアントニーの所感を承はるまでは申すまい。

アント (アグリッパに)それを實行すべき如何いふ權力が貴下に有りますか？ 若し

わたしが「ちやアグリッパ、どうかよろしく」と言つたとしたら。

シーザ シーザーの全權を委ねます、オクタヴィヤに對するシーザーの全權をも。

アント あゝ、此めでたい提案が、どうか首尾よく滞りなく實行せられるやうに！

……(シーザーに)手をいたただかう。此中直りを進めて下さい。今からは親身の兄弟のやうに相愛して、國家の爲に盡力しませう！

シーザ (手をさし出して)さ、これを。わたしは、未だ嘗てこれほど弟に愛された姉はあるまいと思ふ程の姉をば貴下に献げる。姉はお互ひの領地と心とを結び合はせる絆です。決して又とお互ひに仲たがひを致さんやうに！

アントニーとシーザーと握手する。

レビダ まづ以てめでたく、アーメン！

アント わたしはポンペイに對して劔を抜かうとは思ひがけなかつた。あの男は、つい此間わたしに非常な深切を盡してくれたのであるから、後世の非議を受けまいと思へば、先づ一應禮を言つて、それから戦ひを挑むのが當然らしい。

レビダ 時機が切迫してゐるから、すぐさまポンペイの居所を突當て、此方から攻め掛かるべきだ、で無いと反對に攻められることになる。

アント 彼れは何處にゐるのです？

シーザ ミゼナム山の近邊です。

アント 彼れの陸上の兵力は？

シーザ 強大であつて且つ日々に増加します。が、海の方では全權を握つてます。

アント さア、さういふ評判だ。……奴と衝突つて見たいもんだ！……ちや急いで

著手しよう。併し武装する前に、今決議した事を決めてしまはう。

シーザ 大賛成です。ちや、姉にお引合せするために、すぐ御案内ませう。

アント レビダス、君も是非一しよにおいでなさい。

レビダ アントニーさん、よしんば病中であらうとも參上します。

喇叭の盛奏につれてシーザー、アントニー、レビダス入る。

メシナ (エノバーバスに) 埃及からようお歸りでした。

エノバ や、シーザーどの、腹心、メシナス君！ (アグリッパに) 畏敬する親友アグリッ

パ君！

アグリ エノバーバス君！

メシナ 先づ好い鹽梅に事が纏まつて喜ばしいことです。埃及滯在中は面白うご

したか？

エノバ 面白ごわした。晝は夕べけで眠通し、夜は爛酔で飲通しといふ奴でした。

メシナ 猪を八頭朝つばらから丸焼にしたといふぢやありませんか？ 人数は十二人ぎりだったのに。事實ですか？

エノバ そんな事ア鷲の傍の蠅一頭でさ。もつと太豪い大振舞があつたのです、實際特筆に價する程のものがあつたですよ。

メシナ 例のは、實際豪氣な、すばらしい婦人らしいですな、評判の通りならば。

エノバ さ、始めてシドナス河で逢つた時分に、女王はアントニーの心をすつかり己が懐の中へ入れッちまつたのです。

アグリ 實際彼河邊へやつて來たさうですね、わたしの聞いたのが作へ話でなければ。

エノバ その話をしよう。……先づ女王が乗つてゐた小舟は、磨き上げた金の椅子の

やうに波の上に輝き渡つてゐた。船尾の高甲板は金の延板、帆はどれも悉皆紫絹で、香が薫きしめてあつたので、風めがすつかり戀わづらひをして、力なげにそよよく。數十本の橈が悉く銀、そいつが横笛の調べにつれてぐいこくとやるので、浪もついで惚々となるらしく、大急ぎで浪の後を追ふ。さて御本尊と來ては、筆も口も及ぶ所でない。天蓋の下に……金絲織込の薄絹の蔭に……靠れ掛つてをられたが、空想の力造化を壓する晝中のギナスよりも數層倍の美しさ。其左右には、靨を見せて笑つてゐるキューピッドのやうな可憐な美少年が、五色の扇子で以て頻りに煽ぎ立てる、と一たん熱を冷された豊頬が更に又上氣して、一種の美しい光澤を生じた。

アグリ あゝ、嗚アントニーどのが目を丸くせられたであらう！

エノバ 水の女神のやうな侍女連は、人魚の假装をして侍つてゐて、女王の目色を窺つて、頻に品やかに會釋をするのが、それがまた一つの飾りとも見えた。

それからまた船先には、さながらの人魚がゐて橈を操る。絹の綱具類は、花はづかしい柔かい手で盛んに活潑に引張られるのを誇るかの如くに跳り撥る。船からの不思議な、目に見えない香りが、近くの岸にゐる者の鼻を撲つ。満市の者が悉皆駆出した。で、アントニーは、たつた一人ツきり市場に残されて、空気を敵手に口笛を吹いてゐた、その空気がつても、



例の空虚を嫌ふといふ一件がなかつたら、同じくクレオパトラを見に行つたかも知れない、さうすりや自然界に大きな穴が明くんだつた。

アグリ

すばらしい女王だ！

エノバ

女王が上陸すると、アントニーは使ひを遣つて、女王を晚餐に招いた、ところが女王は、是非此方へお出でを願ふと言つた、で、女に對して決して否といつたことのない禮儀の正しいアントニーは、十回以上も顔を剃らせて、響應になり往つて、其一度分の料理代に心の臓の有つたけを支拂ツちまつた、只眼で以て食つたばかりなんだが。

アグリ

豪勢な女だなア！ 大シーザーでさへも臥床へ帶劍を抛出してしまつて、

エノバ

あの女の耕作に取りかゝつたもんだ。で、其收穫まであつたんだ。ある時彼女が大街路を四十歩ほど飛跳るやうにして走つたのを見たつけが、息を断らして、あえぎ／＼寸裂々に物を言ふ其不具な鹽梅式が何

ともいへん程圓滿に美しかつた、満足に言へない處に一種の魅力があつた。併し今日となつては、アントニーも最早あの女を棄てなければならん。

エノバ どうして棄てるものか。あの女は萬年新造の上に、手管が無盡藏だ、で、幾ら慣つこになつても珍らしい。どんな好色家も他の女には饜飽をするが、

あの女だけは、あゝ旨かつたと思ふ口の下から食慾を起させる。其筈さ、どんな下卑たことでも彼女がすると善く見える。彼女の不品行だけは聖

い僧さんたちが祝福する位のものだ。

メシナ 美貌と智慧と貞節とでアントニーの浮氣を止めさせることが出来るやう

だと、オクテギヤは、あの仁の爲には、大幸福の獲物だかなア!

アグリ さ、行きませうせ。……エノバールパス君、どうか御逗留中は、わたしの客になつて下さい。

エノバ 千萬かたじけない。

みなくゝ入る。

第三場 同處。シーザーの邸。

アントニーとシーザーとは二人の間にオクテギヤを歩ませつゝ、侍者を伴ひて出て来る。

アント (オクテギヤに) 國家に對する職務の爲には、時々お別れすることがありますうぞ。

オクテ さういふ際には、いつも神さまのお前に膝まづいて、御無事を祈つてをりませう。

アント (シーザーに) ではお寝みなさい。オクテギヤどのはわたしの瑕瑾に關する

世評を信じないでゐてくれます。從來は不規律であつたが、これからは萬事几帳面にする積りです。(オクテギヤに) 貴女もお寢みなさい。(シーザーに) お寢みなさい。

シーザ お寢みなさい

シーザーとオクテギヤと入る。
豫言者出て来る。

アント こりや。其方は埃及へ歸りたいか?

豫言者 手前がこちらへ參らぬか、又は貴下が彼方へござらッしやらぬか、どちらかであればよかつた!

アント 其理由が言へるか?

豫言者 直覺してはをりますが、口では言へません。が、とにかく早く埃及へお歸りなさい。

アント どつちが運が良い、言つて見る、シーザーか予か?

豫言者 シーザーどのです。...だから、お、アントニーどの、あの仁の傍にゐなさるのはようない。お前さんの精靈は、お前さんの守護神は、シーザーさへゐなければ、堂々たる、勇敢な、りつばな、無類な精靈なのぢやが、あの仁が傍へ來ると壓倒されて、おびえてしまふ。だから、あの仁とは遠く離れておいでなさい。

アント もうその事はいふな。

豫言者 他人には言ひません。お前さんと差向ひの時の外は言ひません。若しあの仁と勝負事をなされば、お前さんは必ず負ける。自然の運勢で、あの仁がお前さんを負す、どんな不利な地位にゐても。お前さんの光りは昏うなる、あの仁が傍で光ると。かさねて言ひ置きます、お前さんの精靈は、あの仁の傍では、まるで怖つてお前さんを能う護らん。が、あの仁さへゐなけ

れば、堂々たるものぢや。

アント 退れ。エンチデイヤスに、予が用があるといつてくれ……

豫言者 入る。

パーシヤへ遣るのだ……通力だか偶然だか知らんが、彼男のいつたことは中つてゐる。骰子までが彼れには従ふ。如何いふ遊戯をして見ても、予の方が技倆では勝つてゐて、運では負ける。籤を抽いても彼奴は成功する。奴の鶏は毎も予のと戦つて勝つ、まるツきり劣つてゐても。それから奴の鶉を籠へ入れると、段ちがひの予の鶉を毎もやツつける……埃及へ歸らう……平和の爲に此結婚はしたものと、予の樂みは東に在る……

エンチデイヤス 出る。

お、エンチデイヤス。おい、すぐにパーシヤの方へ往つて貰はなければならぬ。辭令書は出来てゐる。一しよに來て受取つてくれ。

入る。

第四場 同處。街上。

レビダス、メシナス 及びアグリッパ 出る。

レビダ もうおかまひ下さるな。どうか急いで將軍たちに追ひ附いて下さい。

アグリ アントニーがつい一寸あのオクテギヤを接吻してしまへば、それで一同出陣です。

レビダ 甲冑姿は嘸兩君に似合ふであらう、が、いよくそれを拜見するまで、ひと先づ御機嫌よう。

メシナ レビダスさん、おそろく吾々の方が貴下よりも先に山へ着くらしいです。

レビダ 兩君の道の方が近い。わたしは目的の都合上迂回路をしなければならぬ。
兩君はわたしよりも二日かたも早からう。

メシナ アゲリ どうか御成功を！

レビダ 御機嫌よう！

入る。

第五場 アレキサンドリヤ。クレオパトラの宮殿。

クレオパトラ、チャーミヤン、アイラス、アレキザス、侍者ら出て来る。

クレオ 何か音楽を奏させてくれい。音楽は戀に焦れてゐる者の淋しい糧ぢや。

侍者 おい、音楽を！

閣官 マーティヤン出る。

クレオ もうよろしい。球戯をして見よう。さ、チャーミヤン。

チャー わたくしは腕を痛めてをりますから、どうぞマーティヤンと遊ばしませ。

クレオ 成程女とする位ならば宦官としたとても似たりよつたりぢや。……(マーティヤンに)さ、わたしとするかい？

マーティヤン へい、出来まする限りは。

クレオ 好志さへあれば不行届であつても、分疏は立つものぢや。……が、もう厭になつた。……釣竿を持つて来てくれい。河へ行かう。さうして遠くで音楽を奏させて、あの鰭の黒い魚どもを欺しく釣らう。あいつらの滑々した願を釣で突き刺してくれう。さうして釣上げたら、一尾々々をアントニードのぢやと思つて「そらまた貴郎を捉へた！」と笑つて遊ばう。

チャー 賭をしてお二人様が釣を遊ばした時は面白うござりました。お命令で、鉤



に潜水夫が鹽物を引懸けてお
きましたのを、あの方は御存じ
なくつて、それをば喜んで、一
生懸命にお釣上げになりました
たつけ。

クレオ あの時……あゝ、さういへば、
種々な時があつた！……あの
時、わしは、笑うてくアント
ニーどのを怒らせたつけが、あ
の晩また笑うてく、やつとあ
の人の機嫌を治した。さうし
て其翌朝は、九時にならんうち

に、酔はせて寝せつけてしまつた。それから予の頭物や上被をあの人に
被せて、予があの人佩劍のフィリパッンを腰に下げて見たつけなう……

使ひの者出る。

おや、伊太利からの使ひかい？ 長いこと耳が乾いてゐる、さ、早う吉左
右の雨を降らしてくれ。

使者 御前……え、御前……

クレオ アントニーさまがお亡りになりました……なぞというて見い、おのれは主
殺しぢやぞ。が、おめでたく、何の障りもなういらせられますと言へば、
黄金を與せた上に、わしの此最ち蒼みを帯んでゐる動脈をも接吻させてや
る。幾人も國王が慄えながら接吻したことのある此手を。

使者 先づ、その、おめでたくいらせられます。

クレオ では、黄金の額を増してやる……いや、併しながら、亡つた人のことをもお

めでたくなつたと云ふ例がある。萬一そんな意味で言つたのぢやなぞといひをると、今與すと言つた黄金を溶解して、不吉を口外した汝の喉の中へ注込すぞ。

使者 まア〜お聴下さいまし。

クレオ では、聴かう、さ……が、どうも、汝の顔附がよい。若しアントニーが何の障はりもなうて、強健でをられるのなら、さういふ善い知らせをそんな苦々しい顔附をして知らせに来る筈がない！ かと云うて、實際不祥な事があるのならば、人間の相ではなく、あの蛇が頭髪に巢をくうてゐる怨みの神の相か何かで來さうなものぢや。

使者 どうか一通りお聴取下しおかれませんか？

クレオ 汝に物を言はせるよりも、打撲したうて〜仕様がない。が、若し汝がアントニーは存命ぢや、強健ぢや、シーザーと懇親ぢや、決して捕虜なぞには

ならぬと言へば、汝の頭の上へ黄金の雨を降らせ、眞珠の霰を撒いてくれる。

使者 御前、アントニーどのお強健です。

クレオ よう言つた。

使者 シーザーどのお懇親でござります。

クレオ 汝は感心な奴ぢや。

使者 シーザーどのお交誼は以前に幾倍してをります。

クレオ 思ふ存分に立身させてやる。

使者 ではござりまするが……

クレオ あゝ、その「ではござりまするが」は可厭ぢや、前に言つたことがあしうなつてしまふ。あゝ、可厭なこと〜！ 「ではござりまするが」といふ語は、何か知ら怖しい兇状持を拘引て、來る獄丁なのぢや。なう、其方、どうぞ

有りつたけの事を、荷箱ごと予の耳へぶちあけてくれい、善いことも悪いことも。おのしは、アントニーどのとシーザーとは懇親ちやと言うた、それから強健で、さうして何の障はりも無い、何時でも歸つて來ることが出来る、と言うた。

使者 何時でもお歸り遊ばすことが出来る！ いや、決してさやうなことを申した覚えはございません。オクテギヤどのとの



御關係がございますから。

クレオ

え、關係とは？

使者

御肉體上の關係でございます。

クレオ

チャーミヤン、わたしや息が塞りさうぢや。

使者

御前、アントニーどののはオクテギヤどのと御結婚なされたのでございます。

クレオ

おのれく、おそろしい疫病にとつつかれてしまへ！

使者を打擲する。

使者

まあくお待ち下さいまし。

クレオ

え、何ぢやと？ 退れ、……

又打擲する。

畜生め！ 退れ！ 退らんと、おのれの眼球を鞠のやうに蹴飛ばしてくれ
るぞ。その頭髪を引奪つてくれるぞ。……

使者をあちこちと引摺廻す。

針金の管で打ちのめして、海水の中へ生漬にして、何時までもく苦しませてくれるぞ。

使者 あゝもし御前さま、私はお知らせに参りましたばかりでございませう、私が結婚したのではございませう。

クレオ 今言うたのは嘘ぢやと言へ、汝に領地を遣つて立派な身分にしてやる。撲たれた代りには、予を怒らせたのを赦してやるばかりでなく、無法な望みでなければ、如何なことでも聽届けてやる。

使者 アントニーどのは全く御結婚なされたのでございませう。

クレオ 畜生、もう生かしてはおかんど。

小剣を抜く。

使者 では私は逃げます。ど、どうなされますか？ わるいことを致した覚え

はございませう。

使者逃げて入る。

チャー 御前さま、まあ〜お心をお鎮め遊ばせ。あの者に罪はございませう。

クレオ 罪の無い者も、どうかすると雷に撃れる。埃及全國がナイル河の中へ溶込

んでしまへ！ 柔和らしい物は悉皆蛇になつてしまへ！……彼奴をもう

一度こゝへ呼べ。氣狂になつたつても、予や咬殺しやせんから。呼べ。

チャー お前へ出るのを怖つてをります。

クレオ 彼奴を如何も爲やせん……

チャーミヤン入る。

目下の者を打擲するのは手の穢れぢや。つまりは予自身が種を蒔いたのぢやもの……

チャーミヤン前の使者を伴ひて出る。

こゝへ來なさい。……正直に言うたにもせい、不吉な事を知らせるのはよいことぢやぞ。めでたい知らせは長々と辯ずるがよい、不吉な事は自づと知れるやうにしておけ。

使者

私は只職務だけを盡しましたのでございます。

クレオ

アントニーどのは結婚しましたか？……予は此上汝を憎みやうはない、假令もう一度「さやう」と汝が言うたからとて。

使者

へい、御結婚なさいました。

クレオ

畜生！ おのれ、まだそのやうなことを言ひをるのか？

使者

では、嘘を吐けとおつしやりまするか？

クレオ

おゝ、嘘が吐いて貰ひたいわい、埃及が半分海へ沈んで、穢い水溜と變つて、鱗だらけの蛇の巢になつてしまつても關はん！……えゝ、退りをらう。おのしの面が假令美童神のやうであらうと、予には憎てらしく、醜く見えよ

う。……では、結婚したのぢやな？

使者

どうか眞平御免下さいまし。

クレオ

え、結婚したのぢやな？

使者

どうか御立腹遊ばしませんやうに、御機嫌を損ねようとして申し上げるのではございませぬ。言へとお命じになりました、お罰になりますのは、御無理かと存じます。……全くオクテギヤどのと御結婚なさいましたので。

クレオ

氣の毒ぢやが、アントニーが不埒な爲に、汝も同類の罪を免れんのぢや。え、それでは事實なのか？……退れ。……汝が羅馬から持つて來た代物は、値段が高過ぎて予には買はれんぞ。汝の負擔込にして、それで身代限りをしをれ、ろくでなしめ！

使者逃げて入る。

チャー

御前さま、まア〜。

クレオ 予は、アントニーを賞めるとして、シーザーどのを悪く言うたことがあつた
つけなう。

チャー はい、幾度も。

クレオ その應報が今來たのぢや。……あちらへ作られていつてくれ。……あゝ、氣が
遠くなる。おゝ、アイラスよ！ チャーミヤンよ！……いゝえ、もう何とも
無い。……（アレキザスに）アレキザス、彼奴の許へ住つて、オクテギヤの顔だち
や齡や氣質をも報告せいと分附けてくれ、さうして頭髮の色も。直に返辭
を聞いて戻つて來るのぢやぞ。……

アレキザス 入る。

思ひ切つて彼仁は棄て、しまはう。……いゝえ、棄てるわけにはゆかん。……
……チャーミヤンや、あの仁は、惡鬼のやうに見えることもあるけれど、まる
で軍神のやうに見えることもある。（マーティヤンに）汝は、アレキザスに、あ

の女の身幹の高さをも聞いて來いと言へ。……チャーミヤンや、予に同情し
ておくれ、けれども何も言ふことはならん。……居間へ伴れてつとくれ。
入る。

第六場 ミゼナム岬の附近。

喇叭を盛んに吹き鳴らす。一方よりはボンベイとメナスとが
鼓手、喇叭手らと共に出て來る。他方よりはシーザー、アントニー、
レピダス、エノバールバス、メシナス、兵士をひきぬて進軍し來る。

ボンベ 既に互ひに人質を收め合つた以上、一應の談判を経て開戦しませう。
シーザ 先づ言論を以てするのが當然です。それゆる先だつて書中にて吾黨の趣

旨を申入れておいた。あれを善く讀まれたなら、君は不平の劍を藏めて、壯士等をシ・リーへ伴ひ歸らるべきであらうと考へる、然らざれば、其多數の壯士等が此處で戦死しなければならん。

ボンベ

神明に代つて此大世界の議政官たるの全權を握つてをらるゝ三君に申します、わたしは、亡父が實子もあり且つ親友もありながら、復讐を爲得ない理由はなからうと思ふのです、現にフィリップで怨靈と現れて、あのブルータスを脅したジュリヤス・シーザーの爲には、君がたが復讐に力められたではありませんか？ 抑ゝあの蒼ざめ顔のカシヤスが陰謀を企てたのは何の爲でしたか？ 衆望を集めてゐたあの君子人ブルータスが、自由を思慕する他の人々と共に議事堂に血を流したのは何の爲でしたか？ ひとへに人を人として遇したいが爲でありましたらう。わたしは此度海軍を艦するに至つたのも其意に他ならんのです。大洋は我艦隊を荷つて怒濤を

泡立たせてゐる。わたしの意は、此海軍を以てして、亡父を侮辱した羅馬市民の忘恩を膺懲せんとするに在るのです。

シーザ

十分にお述べなさい。

アント

ボンベ、帆の數では吾々を威すことは出来ないよ。海でも見事お敵手にならう。陸ぢや、言ふまでもなく、吾々の方が計算の上で勝越だ。

ボンベ

(冷笑して) 成程、陸では、君は亡父の邸宅の計算一件で、大分わたしに脊負込ませてゐる。が、郭公は自分では巢を作らんといふから、出来る限り他の物で濟すのもよからう。

レヒダ

いや、どうかそれよりも……そんな事は問題外ですから……此方から申送つた事をば、如何お考へだか、それを承はりたい。

シーザ

それが肝腎です。

アント

敢て此方から願ふのではないが、若しそれをお受けなされば、君に如何い

ふ利益があるかをお考へなさい。

シーザ 且つ、それ以上を強ひてお望みなさるといふと、如何なるかといふこともお考へなさい。

ポンベ 諸君はわたしにシ、リーとサーディニヤとを提供なすつた。それに對してわたしは海上の漂賊共を悉く掃蕩しなければならぬ。それから羅馬へ小麦若干を送らんければならぬ。此相談さへ調べ、互ひに劍の刃を零すにも及ばず、楯に瑕を附けるにも及ばないで別れようといふのでした。

シーザ、ア
ントレビ

ポンベ では、言ひますが、實はわたしは其お申入れを承諾する積りでやつて來たのです。けれどもマーク・アントニーの言はれたことが、つい癪に障つたのです。自分で申しては其徳を失ふ譯ですが、申さざるを得ない、アントニー、シーザー君と君の令弟とが戦つてゐた時分に、君の母堂がシ、リー

へ逃げて來なすつた、わたしはそれを懇ろに待遇しましたせ。

アント ポンベイ、それは豫て承はつてゐたことで、その恩に對しては、わたしは十分に感謝の意を表しようと思つてゐる。

ポンベ お手をいたゞきませう。……(二人握手して)こゝで君にお目にかゝらうとは思つてゐなかつた。

アント 東方の寢臺は眠心が好いからね。が、ありがたう、君のお庇で豫定より早く起きてやつて來た。それが爲に大分得をした。

シーザ (ポンベイに)先だつてお目にかゝつた時とは、大分お變りなすつた。

ポンベ さ、酷な運命めが、面の帳面へ如何な計算を記入したか知りませんが、奴だつて此胸へ入つて來て、心を侵略することは出来ませんや。

レビダ 實にめでたい會合です。

ポンベ 多分めでたく濟みませう。これで、御相談は定つたのだが、わたしは此約

束を成文にして互ひに調印することを望みます。

シーザ それは早速實行しませう。

ボンベ お別れする前に、饗應を爲合はふちやありませんか？

籤で先後を定めませう。

アント ポンベイ、わたしから始めようよ。

ボンベ いや、アントニー、籤になさい。けれどもねえ、晩かれ早かれ、御自慢の埃及式割烹といふ奴を頂戴しますよ。ジュリヤス・シーザーも、彼地で御馳走を食つて、肥満られたといふことでしたよ。

アント 大分お聞込だと見えるね。

ボンベ わるい意味で言つたのちやありませんよ。

アント 何アに、言ひ方もわるくない。

ボンベ で、ま、そんなやうな事を聞いてゐたのです。それに又、アポロドーラスと

かいふ男が、敷物の中へ……

エノバ もう其話はお止めなさい。實際擔いで行つたにはちがひないですが。

ボンベ え、何をです？

エノバ あゝ女王をね、シーザーの許へ、敷物に包んで。

ボンベ あ、やつと思ひ出した君を。如何だ相變らずかね、豪傑？

エノバ え、相變らずです、少くとも口果報だけは。現に四回ばかりお饗應があります。

ボンベ ねえ、握手しよう。わたしは未だ曾て君を憎んだことはない。君の戦鬪振を見て、わたしは内々敬服してゐた。

エノバ わたしはまた曾て貴下を敬愛した事はありませんね。けれどもわたしが思つてたよりも十倍も優しな事を貴下が爲た時分には稱めたこともあつたつけ。

ボンベ 率直けつこう、それが君には似合ふよ。……諸君をわたしの船へ御招待しま
す。……さ、どうかお先へ。

「シーザ、アン」どうか御案内を。

ボンベ さ。

メナスとエノバースだけ残りて皆入る。

メナス (ボンベイを見送りに傍白) お前の親父さんのボンベイなら、こんな條約は締ばな
かつたらう。……(エノバースに)お目にかゝつたことがあつたやうだ。

エノバ 海上でしたらう。

メナス さうでした。

エノバ 海上ぢや大分旨くおやりでしたねえ。

メナス さうして貴下はまた陸上でね。

エノバ 賞めて下さりやア此方からも賞めまさア、もつともわたしが陸で旨くやつ

たて事は事實ですがね。

メナス 我輩が海でやつつけたといふ事も同じくです。

エノバ いゝや、幾らかは事實でないといつといた方が都合が好いでせう、海ぢや
君は大盗賊であつたといふ評判だから。

メナス さういふ君もまた陸ではね。

エノバ いや、そんな功勞は更に無いので。……が、ま、握手しませう。ねえ、メナス、
こちららの目の玉が警察官でなくて仕合せだ、警察官であらうものなら、
忽ち仲をよくしてゐる二人の盗賊を「捕つた」と來るところだ。

メナス 人間て奴は、どいつもこいつも面附だけは、眞實らしいや、……手は如何な
ことをしてゐよう。

エノバ ところが、美しい女の面附と來ると、決して眞實なのは無い、みんな賈物で
さ。

メナス 詐欺な筈さ、男の心を盗むのが奴等の専門だ。

エノバ 本来、こちとらが此處へやつて来たのは、君等と戦はう爲であつたのだ。

メナス 我輩はそれが宴會になつちまつたのを残念に思ふ。ポンペイは、今日一生の好運を、笑ひ潰してしまつたのだ。

エノバ 一たん笑ひ潰したりといふと、もう泣いたつても、わめき復すことは出来な
いや。

メナス 全くその通り。……こちとらは、マーク・アントニーが歸つて来ようとは思
つてゐなかつた。ねえ、君、大將はクンオバトラと結婚したのですか？

エノバ シーザーの姉はオクテギヤといひますぜ。

メナス なるほど。あの婦人はケイヤス・マーセラスの妻女でしたねえ。

エノバ ところが今はマーク・アントニーの妻女でさ。

メナス 戯談だらう？

エノバ 事實でさ。

メナス ちやシーザーと彼男とは永遠に結合した譯だね。

エノバ おれに將來を豫言させりや、さうは言はないねえ。

メナス が、其結婚は、双方の情誼からといふよりも政治上の目的からだらう。

エノバ さうだらう。けれども、友垣を結び合せるらしく見える繩が、存外親睦を
縊殺す紐になりかねないからね。オクテギヤは眞實な、静かな、おとなし
やかな婦人だ。

メナス だれだつて然ういふ妻をほしがらない者はあるまい。

エノバ ところが、自分がさういふ男でないと好かないね。マーク・アントニーが
すなはちそれだ。大將埃及の珍膳の方へ戻つて行くだらう。するとオク
テギヤの溜息で以てシーザーの火の手が揚る。と、今言つた通り、親睦の
源となつてゐるものが、其實仲たがひの直接原因となるだらう。アント

ニーは情の向いてゐる方へばかり情を向けるだらう。つまり今度の結婚は當座の便宜に過ぎないのだ。

メナス おそらくさうだらう。……さ、船へおいでなさらんか？ 祝盃を獻じたい。

エノバ いたゞきませう、埃及で喉を鍛つて来たから。

メナス さ、ゆきませう。

はひ入る。

第七場 ミゼナムの岬に近きボンベイが本船の甲板上。

音楽を奏す。點心と酒とを携へたる二三人の家僕出て来る。

第一僕 今にこゝへ来るだらうよ。足の根の生え處のわるい手合が、最早大分出來

第二僕 たらう。風が一寸でも吹けア吹倒されさうだ。

第一僕 レビダスさんなんかは眞赤な面をしてゐらア。

第二僕 一同で以てあの人にお布施飲をさせたからだアね。

他の人達は、めいゝ氣質が異つてるんで、どうかすると睚み合ひがはじまりさうになる、と、レビダスさんが「もう止め〜！」と調停役を勤めてやつとそれを治めるのは可いが、こんどは自分が盃の方へ大をさまりにをさまつてしまふ。

第一僕 ところが収るところか、大將の頭の中ちや大戦争がおツばじまる。

第二僕 詰り其任でなくて偉い人達の仲間入をすると、えて斯ういふことになるものだ。どうせ持上げることの出來ないくらゐなら、鈎戟を持つてるのも辱弱の葭を持つてるのも同じことだ。

第一僕 さうよ、大きな圓座に据ゑられたからつて、實際其中で動くのでなければ、

眼球の在るべき處に穴ばかりあるやうなもので、面附が見つともなく見えるばかりだ。

センネット 調の喇叭を吹き鳴らす。シーザー、アントニー、レビダス、ポンメイ、アグリッパ、メシナス、エノパーバス、メナス及び他の將官等つれだちて出で来る。何れも多少酩酊の體なり。

アント (シーザーに) 奴等は然うします。ナイルの汎濫を量るには三稜塔の或目標でやるのです。其が高いか、低いか、中くらゐかで、豊年か不作かが解るのです。ナイルが高く汎濫するほど豊作の望みが多い。水が退くと、農夫がぬら／＼してゐる泥の中へ穀物を蒔く、すると程なく收穫時となるのです。

レビダ あそこにや不思議な蛇がゐるだらう。

アント うん、レビダス。

レビダ 埃及の蛇は、日光の作用で、泥で育つのだらう。鰐魚も然うだらう。

アント さうだ。

ポンベ 掛けたまへ……さうしてもつと飲まう！ レビダスの健康を祝しますぞ！

レビダ 平素ほどに強健ではないが、我輩、酒と聞いては、一步たりとも退却しません。

エノバ (傍白) さうさ、だれかの肩にでもつかまらなけりやね。それまでは居据わりのことさ。

レビダ (廻らぬ呂律で、鼻にかゝる聲で) いや、そのトレミー家の三稜塔で奴は、立派なものだつてことを聞いてゐるね。それについては、我輩決して異議はない。

メナス (ポンメイに傍白) ポンベイどの、一寸。

ポンベ (メナスに傍白) 耳の傍で。何を？

メナス どうか席をお離れなすつて、わたしの言ふことを一寸聞いていただきたい。

ボンベ 少々待つてゐてくれ。……(一同に對つて)此盃はレビダス君の爲に!

レビダ (アントニーに)鰐魚て奴は如何な風のもんだね?

アント さ、奴は奴らしい格好のもんだよ。幅は其幅員だけの大きさでね、高さは恰ど其身長だけだ、さうして自分の手足で働く。種々な滋養分を攝つて生きてゐる。一たび其原質を失つたりといふと、全く變生してしまふ。

レビダ 如何な色をしてゐるね?

アント それもその持前の色だよ。

レビダ 不思議な蛇だねえ。

アント さうとも。それからねえ、奴の涙はぬらくしてゐる。

レビダス は次第に爛醉してたはいなくなる。一同それを見てをかしさなこらへてゐる。

レビダス は次第に爛醉してたはいなくなる。一同それを見てをかしさなこらへてゐる。

シーザ (笑止げにレビダスを見やりて)大將は、今の説明で満足したのかね?

アント (笑つて)さア、景物にボンベいの祝盃が附いてるからね。それで満足しなければア贅澤過ぎるといふものだ。

此問答の間メナスはボンベイを一隅へ伴ひ行きて、二三度何事をか囁く。と、ボンベイは顔の色を變へる。

ボンベ (メナスに傍白)何を馬鹿なことを! おれにそんなことをいふ奴があるか?

あつちへ! え、あつちへ行つてゐなさいといふに。……(給仕人に)持つて來いといつた酒盃は何處にある?

メナス (ボンベイに傍白)わたしの從來の功勞を思つて下さるならば、どうか一應お席を離れて下さい。

ボンベ (メナスに傍白)君はどうかしたのぢやないか? (立上りて、一隅へ歩み離れる)……

用といふのは?

メナス これまで随分、貴下の爲に盡しました。

ボンペ よく君は盡してくれたよ。外にまだ何か言ふことがあるかい？……(一同に諸君、愉快にやりたまへ！)

アント (レビダスを介抱しながら)レビダス、流沙だく、流されちやいかんよ、しつかり

く。

此うちレビダスよるめきて倒れる。

メナス (ボンペに傍自)全世界の主になる氣はありませんか？

ボンペ 何をいつてゐるのだ？

メナス 全世界の主になる氣はありませんか？これが二度目です。

ボンペ どうしたらなれるね？

メナス 只その氣におなりなさりさへすりや可いのだ。貴下はわしをつまらん者だと思つてゐなさるけれども、全世界をわしの手一つで貴下に獻ることが

出来る。

ボンペ 大分酔つてるね？

メナス いゝや、ボンペイ、酒盃には手を觸れなかつたのです。おやんなさる勇氣さへあれア、お前さんは下界のジョーヴ神になれる。大洋が圍繞く限り、空が蓋ふ限りの處はお前さんの有だ、取る氣さへあれア。

ボンペ それには如何すれば可いのだ？

メナス あの三人の世界共有者が、あの三人の同僚が、三人共に此船に乗込んでゐる。わしが錨綱を打切りませう。さうして沖へ出た時分に、奴等の喉笛をやつつけるんです。さうすりや悉皆お前さんの有になる。

ボンペ 嗚呼、そりやお前が實行すべきだつた、口へ出さないでゐて！おれがやれア卑怯だ、お前がやりや忠義な働きになるのだ。ねえ、おれは利益よりも名譽を重んずる、名譽あつての利益だ。惜しいことをしたんだ、それを

口へ出してしまつたのは。おれが知らないでゐてお前が爲たのであれば、後で、あゝ善くしてくれたといつたのであらうけれど。今は不可いといはんけりやならん。止めて、酒を飲みな。

ボンベイ元の席へ戻つて行く。

メナス (その脊を見送りて傍白) ぢや最早……おれアお前の運命の下り坂のお伴はしないよ。欲しがつてゐながら、さア遣らうといふと、取り得ないやうな男は、もう決して取り得る筈アない。

ボンベ (席に戻りて、一同に) これはレビダスの健康を祝するんですぞ!

アント (床上に倒れてゐるレビダスを見やりて) さ、大將を陸へ揚げたり……ボンベイ、わしがレビダスの代理をしよう。

エノバ おい、メナス。こりや君の爲に飲むせ。

ボンベ よし来た、エノバーバス!

ボンベ さア、なみくと注いでくれ。

此時侍者の一人酔ひ倒れてゐるレビダスを肩に掛けて席外へ退く。

エノバ (その侍者を指さして) メナス、彼奴ア強勢な男だぜ。

メナス 何故?

エノバ 世界の三つ一つ分を引擔いでゐらア。

メナス ぢや全世界の三分の一が爛酔つたといふ譯だね。残る三分の二が同断な

ら、全世界がぐるぐる廻らうといふもんだ。

エノバ お前も飲め、その踉蹌廻りの手傳ひをしなよ。

メナス さア來い。

ボンベ (アントニーに) これぢやアまだくアレキサンドリヤ式の盛宴とは言はれないね。

アント 大分その氣味になつて來た。……おい、もつと樽を開ける。……さ、これはシーザーの爲に！

シーザ わたしは止めておきませう。酒で腦を洗濯するのは、それを穢くするばかりで、怖しい骨折損です。

アント まアさ、其時、其場合の兒におなりなさいよ。

シーザ おはじめなさい、お附合しませう。……が、一度期に如是に飲むよりは、四日も絶対に飲まんほうが優しだ。

エノバ (アントニーに) ねえ、皇帝！ 此盛宴を祝して、埃及の酒神踊をやりませうか？

ボンベ やりたまへ〜。

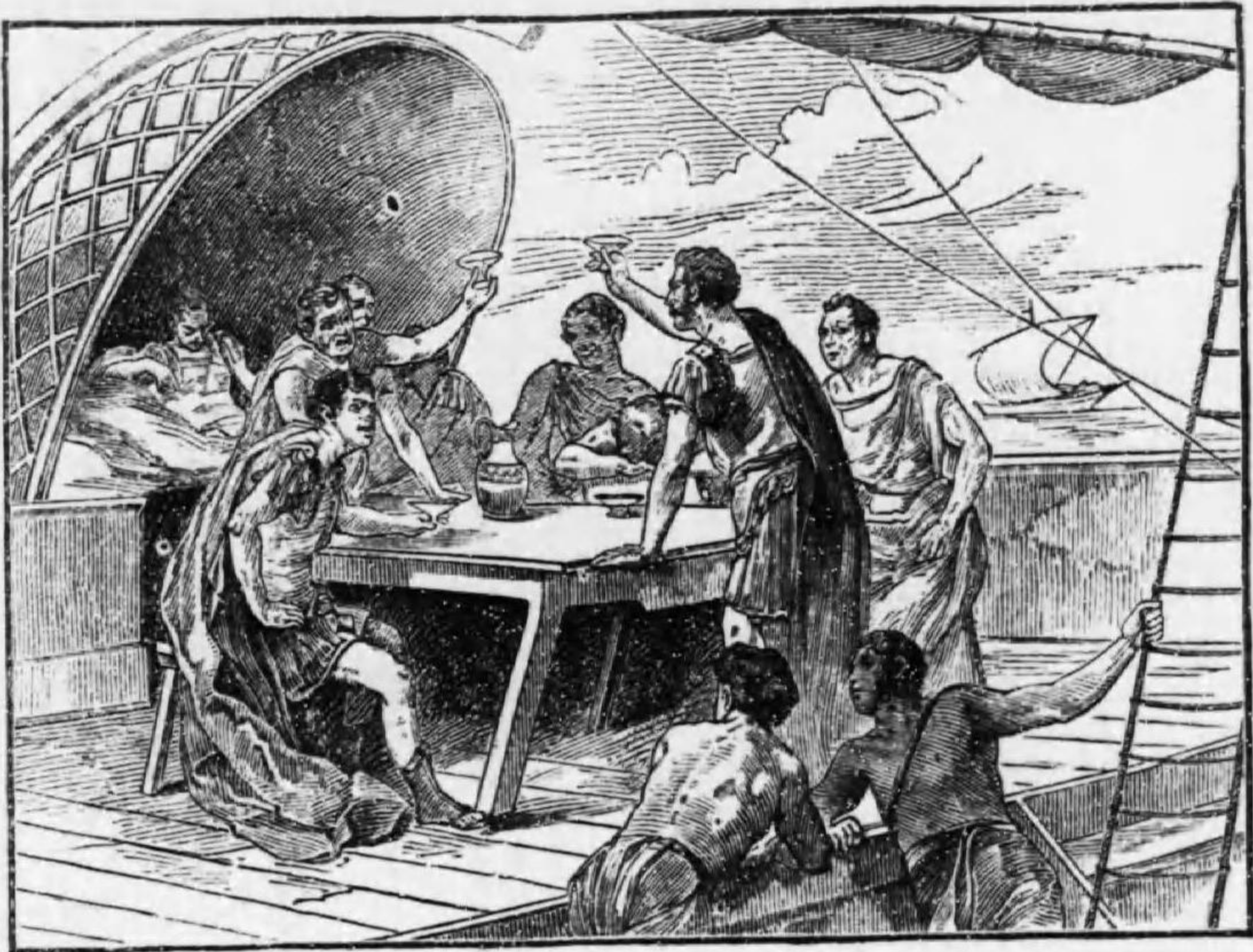
アント さア〜、一同手を取りあつて踊つたり、酒に征服されて、めい〜が好い心持に何もかも失念河の中へ沈没させてしまふまで。

エノバ みんな手をお取んなさい。(奥へ向きて) さ、思ひ切つて高調子に音楽をぶつつけろ。そのうちに予がめい〜の位置を定める、するとあの少年が歌を謡ふ。棄言葉はめい〜が出来るだけ大きな聲で怒鳴るんです、横ッ腹が破れさへしなけりやア。

音楽を奏しはじむる。エノバ、バスの衆人の手を繋ぎ合はす。

(歌)

ござれ、お前さん、葡萄の王さん、
しよぼ〜、眼の肥満漢さん？
バツカス、お前の酒樽に、
心配苦勞はどんぶらこ、
頭にや葡萄の房飾り。
飲め〜、世界の廻るまで、
飲め〜、世界の廻るまで！



シーザ え、もう澤山だらう？ ポンペイ、お寝みなさい。……(アントニーに) 大兄、ねえ、もう退席しませう。われ々の重大な任務の面目に關るから。……諸君、もうお別れにしよう。この通りお互ひに面が火のやうになつてゐる。勇敢なエノバールも酒といふ大敵には敵はない。わたし自身の舌も纏れて能く言へない。みだりがはしい酔態の爲に、一同が殆んど道化方同様の爲體だ。もう彼れ此

れ言つてゐる必要は無い。お寝みなさい。アントニー君、さ、手を。

ポンペ 陸で改めてお敵手しよう。

アント 是非。さ、手をいただかう。

ポンペ あゝ、アントニー、君はおれの親父の住んでゐた邸宅を……が、そんなことは如何でも可いや……お互ひに親友だ……さ、艇へ乗らう。

エノバ 御注意なさい、轉びますぞ……

エノバールとメナスだけを殘してみなく入る。

メナス、おれは陸へは行くまい。

メナス さうさ、おれの船室へ來たまへ。……おい、太鼓は？ 喇叭や笛は如何したんだ？ 豪傑連に俺達が偉大い暇乞をするのをば海王に聞せろ。

やい、はじめろ、どツ畜生め、はじめろてば！

喇叭を盛んに吹き鳴らす。太鼓を打鳴らす。

エノバ (艇の方へ向きて) おゝい! と言つてらア。(帽子を抛上げながら) そらア帽子だ!

メナス おゝい! …… (エノバにバース) 大將、さ、来たまへ。

二人入る。

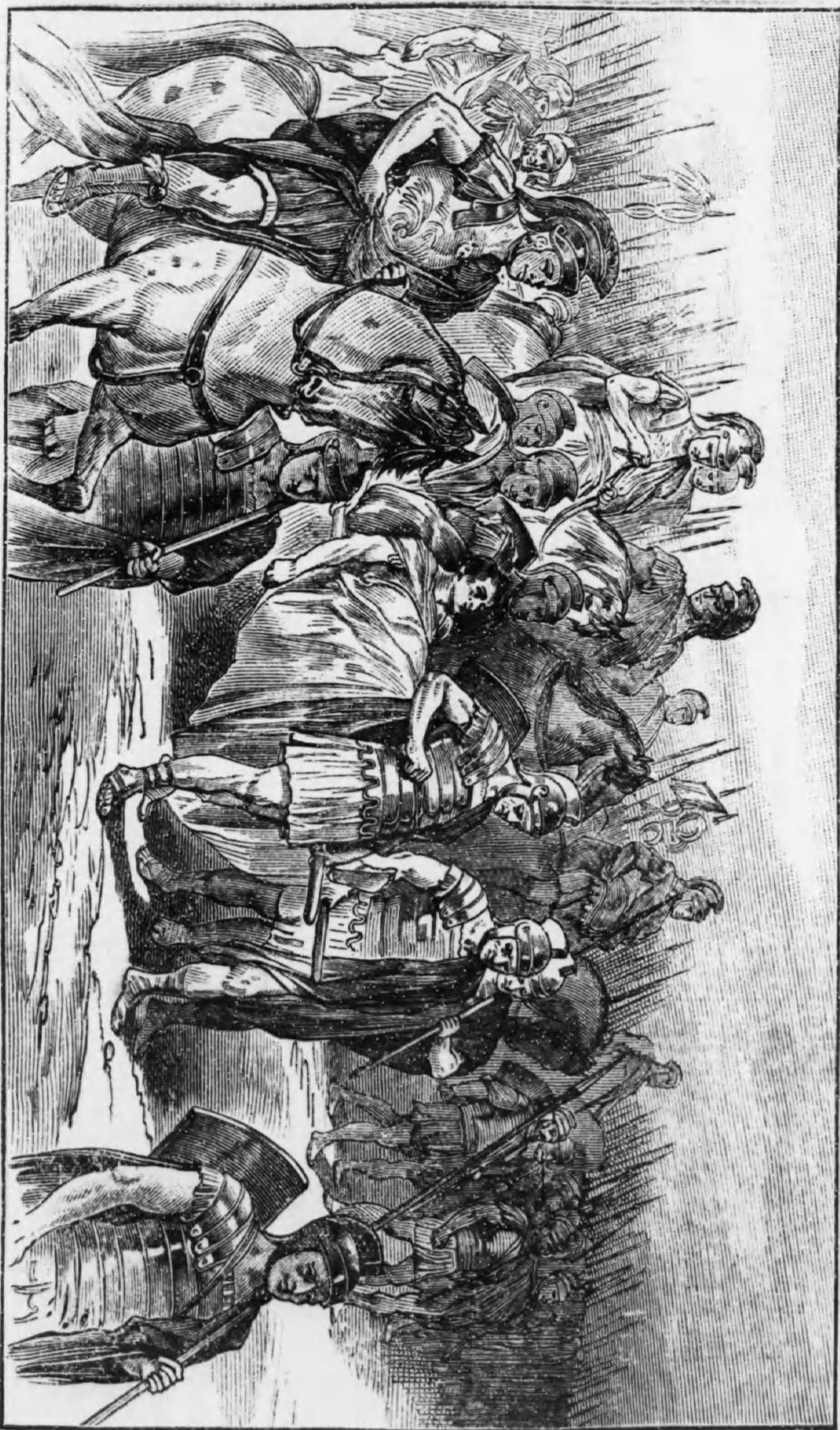
*
* * *
* * *
* * *
* * *
* * *
* * *
* * *

第三幕

第一場 シリヤの一平原。

エンチ デイヤス、凱旋の體にて、其部下の將シリヤス及び他の羅馬人、士官、兵士らと共に出て来る。バシヤ王の子メコラスの死骸を陣頭に擔ぎて出る。

エンチ 投箭で名を知られたバシヤよ、到頭汝はやられた。運命の神の機嫌が直つたと見えて、予の手で、マーカス・クラッサスの爲に、復讐が出来た。…王



の伴の死骸は陣頭に擔いで行け。パーシヤ王よ、お前が此バコラスを失つたのは、マーカス・クラッサスの應報なのだ。

シリヤ エンチデイヤズどの、貴下の劔がパーシヤ人の血で、尙温みのある間に、奴等を追撃なさい。メデイヤ、メソポタミヤ、其他奴等の隠れさうな處を蹂躪なさい。さうすりや御大將のアントニーが、貴下を凱旋の花車に乗せたり、名譽の輪飾を被せたりしませう。

エンチ あゝ、シリヤス、シリヤス、予は最早これで十分の事をしたんだ。下役といふ者は、注意せんと、功を立て過ぎる。シリヤス、とかく、上官がをらん時分には、あんまり立派な名譽などは得んやうにしておく方が安全だといふことを覚えてお置きなさい。シーザーやアントニーは、實をいふと自力で得たよりも下官の力で得た方が多いのだ。アントニーの副將のソッシヤスは、シリヤスでは恰ど予の位置にあたのだが、矢繼早に功を立てて、急に名が

高くなつたので、遂にアントニーの寵を失つてしまつた。大將以上の手柄をする男は、大將の大將になる。そこで、武人には附屬物の功名心が我名譽を昏ますまい爲に、勝利よりも寧ろ敗北を望む。予なんぞも是以上アントニーの爲に盡すと、必然不興を醸す、不興を醸せば、手柄が無駄になるといふものだ。

シリヤ エンチデイヤス、貴下は流石に智者だ、智慧ツて奴が無かつたら、武人は劍の化者のやうなものだ。…アントニーへ御報告なさるか？

エンチ 謙遜な言葉で知らせてやる積りだ、吾々は、戦争の神呪たるお名前を頭に戴いて、云々の功を奏した、平生高給をお與へになつてゐる兵員及びお旗の方で、曾て敗北したことはないバーシヤの騎兵を難なく戰場から逐ひ拂ひましたと、かういつてやる積りだ。

シリヤ アントニーどのは今何處にゐますり。

エンチ アゼンスへ往かうとしてゐる。吾々も、此重荷が許す限り、大急ぎで、彼仁よりも先に彼處へ行き着かなければならん。…さア、さア。進軍！

はひ入る。

第二場 羅馬。シーザー邸の溜りの間。

シーザーの黨員アグリッパ一方の入口より、エノメーヌは他の入口より出て来る。

アグリ え、兄弟達は別れたかね？

エノバ 談判が済んだから、ボンベイは歸つた。残る三人は今調印中だ。オクテギヤどのは羅馬を離れとむながつて泣くで、シーザーも鬱いでをられる。

それからあのレビダスは、メナスの話ちや、ボンペイの饗應以來、萎黃病で弱つてるんださうだ。

アグリ (反語的に)あの人は感心だよ。

エノバ (同じく反語的に)けつこうな人さね。全くシーザーの爲には身を獻ずると言つてまさア!

アグリ どうして、アントニーの爲にこそ身命をも抛つと言つてゐます!

エノバ (レビダスの口真似をして)「え、シーザー? あれア人間中の神王だ」。

アグリ (同前)「が、アントニーは……その神王の神様だ!」

エノバ 「シーザーですか? おゝ、あれア古今無類の男だ!」

アグリ 「あゝ、アントニー! あゝ、足下はアラビヤの靈鳥だ、人間中の鳳凰だ!」

エノバ 「もしシーザーを讃めやうといふのなら、只『シーザー』といへば足れりだ。それ以上をいふ必要はない。」

アグリ 實際、あの仁は、うまい讃辭を並べ立て、どちらをも巧く操つたもんだ。

エノバ が、あの人が最も愛してゐるのはシーザーだ、けれどもアントニーをも愛してゐるのだ。あゝ! 心も、舌も、数も、筆も、歌も、詩も、アントニーに對する彼れの愛を、思ふことも、言ふことも、算へることも、書くことも、歌ふことも、綴ることも出来ない。が、シーザーに對しては、跪いて、更に跪いて、驚き仰ぐの外はない。

アグリ つまり両方ながら愛してゐるのだ。

エノバ 甲蟲で謂ふなら、二人は翼で、あの男は中の蟲だね……

奥にて喇叭の聲がする。

アグリ ありや馬に乗れといふ知らせだ……アグリッパ君、さやうなら。君にも御機嫌よう。さやうなら。

シーザー、アントニー、レビダス、及びオクテギヤ出る。

アント (シーザーに) もう何卒これで。

シーザ 予は貴下に、予の身の貴重な部分をば持つて行かれてしまふのです。わたしだと思つて大事にして下されたい。……(オクテギヤに) 姉上、どうかわたしの豫想通りの、又わたしが飽迄も保証し得るやうな妻となつて下さい。……アントニー君、吾々の懇親を堅固に築き上げる膠灰として二人の間に置かれる此一淑女をして、どうか其城郭を撞崩す爲の道具とならせるやうなことをして下さるな。萬一にもそんなことがあるやうなら、かういふ媒介を用ひん方がお互ひの爲であるから。

アント あんまりお疑ひだと、不快に思ひますぞ。

シーザ もう何もいふことはありません。

アント 大分御心配のやうだが、決して御懸念には及ばん。……願はくは神々が貴下を護り、且つ羅馬民衆の心をして貴下の望に副はしめられんとを！……こ

れでお別れしよう。

シーザ では姉上、御機嫌ようお暮しなさい。浪も風も都合好く、めでたく愉快に御旅行なさい！ 御機嫌よう。

オクテ オクテギヤスどの！

二人相擁して別れを惜む。

アント 彼女の目に四月が催してゐる。あれが即ち愛の春を齎して来る小雨だ。

(オクテギヤに) ……まあ、元氣になさい。

オクテ (シーザーに) ねえ、どうぞ夫の邸の後始末をよろしく。それからあの……

シーザ え、何ですり。

オクテ 耳を貸して下さい。

オクテギヤスの傍に寄り添ひて耳語する。

アント (傍自) 舌が心の思ふ通りにも働かなければ、心も其思ふ存分をば舌に知ら

せない……水勢の強い時に、どちらへも靡きかねてゐる白鳥の柔毛の様に。

エノバ (アクリッパに傍白) シーザーが泣出しさうだね?

アクリ (エノバに) さやう、顔に雲が懸かつて来た。

エノバ 馬でなくって人間だから、まだしもだ。

アクリ だつて君、アントニーは、あのジュリヤス・シーザーが死んでゐるのを見た

時にや、殆んど吠えるやうに哭いたんだぜ。それから、フィリップでブルー

タスの死骸を見た時にも哭いたんだ。

エノバ 實際あの年には大將泣蟲に取附かれてゐたんだ。自分がわざと殺して

おきながら泣いたんだ。實際おれまでも貰ひ泣きをした位だ。

此の間 シーザーとオクテギヤは耳語をつゞけてをり、アントニーは何事か沈思してゐる。

シーザ (耳語を聞了りて) いゝや オクテギヤ、始終消息をしますよ。一日だつても、貴

女の事を思はんで過すやうなことはしません。

アント (二人の間へ入りて) さア、さア。(シーザーに) 愛情の強さ比べなら、貴下と相撲を取つてもいゝ。……(シーザーを抱擁して) そら、斯う捉へて、それから斯う放して、……では御機嫌よう。

シーザ さやうなら。御機嫌よう!

レビダ 天に有る限りの明星が貴君のめでたい行手を照しまするやう!

シーザ 御機嫌よう、御機嫌よう!

オクテギヤに接吻する。

アント 御機嫌よう。

喇叭鳴渡る。皆々入る。

第三場 アレキサンドリヤ。クレオパトラの宮殿。

クレオパトラ、チャーミヤン、アイラス及びアレキザス出て来る。

クレオ 彼奴は何處にゐる？

アレキ お前へ出るのを怖つてをります。

クレオ ま、おろかな奴ぢや……

前の場の使ひの者恐る／＼出て来る。

こゝへおいで。

アレキ 御前さま、假令ユダヤ王のヘロッドでございましたつても、御機嫌のお宜しい時でなければ、お顔をお見上げ申すことを能い致すまいと存じます。

クレオ そのヘロッドの首をもわしは取らうと思ふ、けれどもアントニーどのがを

られねば如何しようもない、彼人の力を借りて命令を下すのぢやゆる……もつと進め。

使者 おそれながら……

クレオ 汝はオクテギヤを見たか？

使者 へい、お見上げ申しました。

クレオ 何處で？

使者 へい、羅馬で……すつかりお顔を見ました、弟御さまとマーク・アントニーさまとが、左右から御介抱なされてござりました。

クレオ 丈はわし位か？

使者 御前ほどお高くはございません。

クレオ 物をいふのを聞きましたか？ 甲高か、低いか？

使者 へい、物をおつしやるのを聞きました、低いお聲でござります。

クレオ あんまり好い方ぢやない。……迎も長うは彼人の氣に入りさうにない。

チャー お氣に入りますつて！ どうして！ お氣に入ります筈はございません。

クレオ あゝ、チャーミヤン、わしもさう思ふ。聲が引立たぬ上に、矮人といふので

は！……歩き方に威嚴があるかい？ 威嚴といふものを汝見たことがあ
るなら、それと比べて御覽。

使者 這ふやうにお歩きです、動いていらつしやいましても停つていらつしやる

やうでござります。死骸か像のやうでいらつしやります。

クレオ きつと然うかり？

使者 これが間違つてをりましたら、私は觀察力が無いのでござります。

チャー 此仁は、埃及中で、もう三人とはない程の目敏い男でござります。

クレオ 成程、機敏な男らしい。……今の話では、オクテギヤに、何もこれといふ長所
はない。……此男は中々目があるなう。

チャー はい、大變に目敏い人なのでござります。

クレオ (使者に) 齡は幾つ位と思ひます？

使者 御前、おの方は未亡人でいらせられました……

クレオ 未亡人！ チャーミヤンや、お聞き。

使者 お卅歳だらうかと存じます。

クレオ 顔だちを記えてゐるかい？ 長いか、圓いか？

使者 圓過ぎます位で。

クレオ 圓顔の女は、大抵おろかなものぢや。……頭髮は、どんな色ぢや？

使者 へい、鶯色で。お額附は思ひ切つて低うござります。

クレオ 此褒美には黄金を與せます。先刻ひどう扱うたのを必ずわるう思はんが

好い。歸りの使ひも汝に吩咐ける。汝は役に立ちさうな奴ぢや。さ、直
に支度をせい。書面は最早出来るばかりになつてゐる。

使者會釋して入る。

チャー 立派な男でございますのね。

クレオ ほんに、立派な男ぢや。ひどう扱うたのは氣の毒であつた。……今の話で見ると、彼女は別に氣にする程の女ではないらしい。

チャー ございませんとも。

クレオ 彼男は幾らか威嚴のある人を見知つてゐるから、解るであらう。

チャー 見知つてゐますつて？ ゐなくつて如何いたしませう？ こんなに永らくお仕へ申してゐながら！

クレオ チャーミヤン、わしやまだ一つ彼男に訊くことがあつたものを。が、そりや、まア如何でもよい。……彼男をつれて來とくれ、わしが書狀を書いてゐるところへ。……萬事好都合に行くであらう。

チャー 大丈夫でございます。

入る。

第四場 アゼンス市。アントニー邸の一室。

アントニーとオクテギヤと出る。

アント いや、そればかりぢやアない。……それなんかは尙しも辨疏が立つ、それに類する事は、尙百も千もあるのだが、それらはまだ辨疏が立つ……けれども、ボンベイに對して新たに戦争を開始したのみならず、遺書を製へて、それを公衆の前で讀んだのだ。……殆ど子を誹らぬばかりに、是非子に敬意を表すべき場合にも極冷淡な口吻を洩し、なるたけ子を疎外するやうにして、讀めなければならん段取となつても、尙故とそれを外して、徒の口

先だけで讚めたさうだ。

オクテ お、あなた、噂を一つ々事實だと思ひ遊ばすな。よしんば事實にもせよ、一々お氣に障へて下さりますな。もしこれが不和の原にでもなつたら、兩方の爲に間に立つて、お祈をせねばならん妻ほど、不仕合せな女が世の中にあらうか！……神さまが嘲弄なさるであらう、わたしが「お、何卒我夫に幸ひあらしめたまへ」と祈つておきながら、直に「お、何卒我弟に幸ひあらしめたまへ」と同じ大きな聲でお祈りして、折角前に願つた事を取消すも同様なことを願つたなら！ 夫勝てよ、弟勝てよと祈るのは、祈りを自身で毀してゐるのです。此兩端の間には如何いふ道もないのです。

アント オクテギヤどの、貴女は、眞實に貴女を愛し保護しようとしてゐる者の方へこそ愛情をお寄せなさるべきである。予は、若し名譽を亡へば、身を亡ふのである。名譽を亡つて貴女と同棲する位なら、同棲しなかつた方がま

オクテ

ありがたうございます。……強大なるジョーヴ神よ、何卒かよわい私を弟と夫との調停者として成功せしめたまへ！……貴下がたの戦ふのは世界を引裂くやうなものです、さうして其裂目を戦死者の死骸で埋めるのです。發頭人が分つた時に、愚痴はその當人へお言ひなさい。貴女がどちらをも同等に愛することが出来るほど、それほど兩方に、同じやうに罪があるの



アント

ぢやアない。……出掛ける支度をなさい。好きな者をお伴れなさるがいゝ、費用もお心任せになさい
入る。

第五場 同處。他の一室。

エノバールとアントニーの黨人イロスと左右より出て來りて相逢ふ。

エノバール どうだ、おい、イロス！

イロス 奇な報道を聞いた。

エノバール え、如何した？

イロス シーザーとレビダスがボンベイと戦争を始めた。

エノバール めづらしくもない話だ。結果は如何なつた？

イロス 戦争中は、シーザーは始終レビダスを利用してゐたんだが、濟むや否や、同僚たることを拒んで、奴が嘗てボンベイへ送つた或書面の事で弾劾を始め、自分で告發し、自分で逮捕してしまつた。そこで笑止な三分の一先生、死んで此世から放免されるまでは、押込の身といふのだ。

エノバール ぢやア、世界よ、汝の願は上と下の二つだけになつちまつた。汝の有つてだけの食料を其真中へ抛込め、これから上願と下願が、嘸精出してガリガリやるだらう。……アントニーは何處にゐるね？

イロス 庭を歩いてゐる。……こんな風だね。さうして前にあるものは何でも關はず蹶飛ばして「レビダスの馬鹿！」と怒鳴つたり、ボンベイを殺した彼の役人めを縊り殺してくれたいなんて怒鳴つてゐる。

エノバール 大艦隊の準備は最早出來たなう。

イロス うん、伊太利でシーザーと戦はうといふのだ。……まだ他に話があるんだが、
將軍が直に君に逢ひたいといつてるから、おれの話は後にしよう。
エノバ 詰らん用だらう。が、往かう。アントニーの許へ案内してくれ。
イロハ さ、来たまへ。
入る。

第六場 羅馬。シーザー邸。

シーザー、アグリッパ及びメシナス出る。

シーザ 羅馬を侮蔑してフレキサンドリヤで悉く斯ういふ事を爲たばかりでな
く、これ以上の事をもしたのぢや。市場の中央に、銀の延板を以て飾り立

てた高い壇を装置はせて、自分とクレオパトラとは黄金の椅子に腰を掛け、
其脚下には、わしの父の落胤ちやと彼等の稱してゐるシーザリオンをはじめ、
め、二人の間に邪淫が生まれた私生兒の有リつたけを腰掛けさせた。彼れ
はクレオパトラの埃及王たる權利を確定した上に、下シリヤ、サイプラス、
リディア、此三王國の專制權をも與へたのぢや。

メシナ 公衆の前で、すか？

シーザ 平生競技なぞを行ふ普通の觀覽場でしたのぢや。それから其子供らを

王の王と宣言して、メディアヤ、パーシヤ、アーメニヤの三國をアレキサンド
ーに、シリヤ、シ、リヤ、フィニシヤをトレミーに與へた。クレオパトラは
其日は女神アイシスの假裝で臨場した、其前にも同じ假裝で謁見を許した
ことが屢々あつたといふことぢや。

メシナ その通り羅馬市民へお知らせなさるがよろしい。

アグリ さうすれば、市民は彼れの暴慢なのに呆れ果てつゝゐる處ですから、悉く不人望になるに相違ありません。

シーザ 市民は最早知つてゐる。のみならず彼れから弾劾書まで受取つてゐる。

アグリ だれを弾劾するのです？

シーザ 此シーザーを。シ、リーに於けるセキスタス・ボムベイヤスの所領地を攻略しながら、其分前を彼れには與へななんだといふのが一箇條。それから嘗て用立てた或船舶を予がまだ返さんといふ。最後に、レビダスの執政を罷めさせたこと及び其財産一切を差押へたことを憤るのぢや。

アグリ 早速答辯なすつた方がよろしいでせう。

シーザ もう答辯は與へたので、使ひの者は去つた。予が答へたには、レビダスは、國家の大權を濫用して、苛酷な振舞をするに至つた、だから改易は當然ぢや。攻略地を彼れへ配分することに關しては、此方に何の異議も無い、た

いし彼れの手で攻略したアーメニヤ其他の王國に對しても同様の手續を要求すると、斯う言うてやつた。

メシナ 彼れは決して其要求に應じますまい。

シーザ 應せんければ、此方も決して應せん。

此途端 オクテギヤ 従者らな從へて出て来る。

オクテ 御機嫌よう、シーザーどの！ おなつかしうござります！

シーザ (思ひがけざる再會に驚きて) かりにも棄てられてお歸りなされたといふやうなことのないやうに！

オクテ 決してそのやうな御心配には及びません。

シーザ どうして斯う内々らしくしてお出でなすつたのぢや？ シーザーの姉らしうもない御入來振ぢや。アントニーの内室ならば、豫め一軍隊を先發させて其事をお知らせあるべきです、さすれば馬の嘶く聲々で、すつと前方

から程なく來著といふ事が分るから、沿道の樹木には人が鈴生りに生り、待草臥れて悶絶するものなども出來、多勢の從者らが蹶揚げる塵埃は、おそらく天の頂きまでも立昇つたでありませう。然るに貴女は、まるで田舎娘か何かのやうにして、羅馬へ歸つておいでなすつた。随つて友愛の情を表することも出來なんだ。……愛情といふものは、折々互ひに表し合はんと忘れるやうになるものです。……海へも陸へも、多勢の迎への者を出して、驛々で、更に其人數を増加すやうにしたであらうに。

オクテ シーザードの、斯ういふ風にして來ましたのは、他に強ひられたのではなく、わたし自身の好みです。夫のマーク・アントニーが、貴下が戦争の準備をなすつたと聞いて、わたしにその事を話されましたので、心配の餘り特に許可を乞うて、歸つて來たのです。

シーザ それは直に許しましたらうよ、邪淫に耽る邪魔になるから。

オクテ いゝえ、さういふ譯ではありません。

シーザ 何事も見抜いてゐます。一切の様子は風が持つて來ます。今何處にゐるのです？

オクテ アゼンスにゐます。

シーザ いゝえ、姉さん、貴女は非常に侮辱されてゐなさるのです。クレオパトラが彼れに向つておいでくをしたのです、二人は今戦争の準備に、列國の王共を徵集してゐます。已に集つたのは、リビヤ王のポッカス、カッパドシヤのアーケロウス、バフラゴニヤのフィラデルフォス、スレース王のアダラス、アラビヤ王のマルカス、ポントの王、猶太王のヘロッド、コマジン王のミスリデチス、ミード王のボレモン、ライカオニヤ王のアミンタス、まだ其他にも多勢の王者が加はる筈です。

オクテ あゝ、わたしは、何といふ情ない不幸な者であらう、どちらも大事の人であ

るのに、それがお互ひに苦しめあはうとしてゐるのぢや！

シーザ (立寄りて慰めて)喜んでお迎へしますぞ。實は貴女の書状を見たので、じつと怒りを忍んでゐたのです、けれどもぐづくしてゐると、貴女はますますく侮辱され、わたしは一身を危うするといふことを覺つたのです。様嫌をおなほしなさい。據ない英斷の爲に、貴女が苦勞をなさるのも、時勢の止むを得ない所であるとお諦めなすつて、歎かないで、萬事を運命に一任なさるがよい。……ようこそお歸りなすつた。わたしには貴女が最もなつかしい人です。貴女は思ひも及ばんほどの凌辱を蒙つておいでなさる。神々が、貴女の爲に、わたし共を代官として是非の裁判をさせようとなさるのです。大事の姉上、よう歸つて來て下すつた。

アグリ ようこそお歸りなされました。

メシナ ようこそお歸り遊ばされました。……羅馬中の者が貴女をお愛し申してお

氣の毒がつてをります。あの多情な、仕方のない放蕩者のアントニーだけが貴女を疎外するのです。さうして淫婦に權力を與へて騒動を起させるのです。

オクテ (シーザーに)さうでせうか知らん？

シーザ 無論です。……姉さん、ようお歸りなすつた。どうぞ忍耐強い人になつて下さい。大事のお姉えさん！

シーザーは姉をいたわりながら、一同を伴ひて入る。

第七場 アクチャム附近。アントニーの陣營。

クレオパトラとエノパーパスと出で來る。

クレオ (怒氣を含んで) 此儘では濟さんから、記憶えてゐなさい。

エノバ どうして、え、どういふ譯です?

クレオ おぬしは、わしが今度の戦争に出陣するのを不都合ぢやというたさうな。

エノバ さ、不都合でないでせうか、不都合で?

クレオ 出陣してはならんといふ特別の沙汰のない以上は、わしがそれになづさはつて、何故わるい?

エノバ (傍白) その返辭はお易い御用だ。……牡馬と牝馬とを一しよに伴れてつて戦争をした時分にや、騎兵はめちやくになつちまふからだ、牝馬めが兵を乗せたまゝで牡馬をしよびいてつてしまふから。

クレオ 何をいうてゐるのぢや?

エノバ 貴女が傍にいらつしやると、アントニー殿の頭具合が變になるんです。最も必要な時分に、彼人の勇氣も智慧も時間も必然不足になるんです。あの

人は、今だつても、さんぐ不眞面目だといふ非難を受けてゐます。羅馬ぢや宦官のフォーチナスとお腰元衆とが戦争の指圖をするんだなんて評判してゐます。

クレオ おのれ、腐ツちまへ、さういふ悪口をしをる其舌の根も羅馬も! おれは軍費までも支出してゐるのぢや、一國の主として是非出陣して男同様の働きをして見せるのぢや。異議をいふことはならんぞ、わしは是非出陣する。

エノバ へい、もう言ひません。……あゝ皇帝が見えられた。

アントニー 副將のカニディヤスと話しながら出て来る。

アント カニディヤス、實に思ひがけなかつたことだ、タレントムやブランデューシヤムにゐた筈の彼奴が、さう急にアイオニヤ海を横斷して忽ちトーリンを占領するなんてことは。……(クレオバトラに) 此事をお聞きでしたか?

クレオ 他人の機敏なのに最ち感心するのは迂濶な當人なのです。

アント 怠慢を誡める好い格言だ、賢哲の口から出たとしても恥しくはない。……カニ
デイヤス、我軍は海上で迎へ撃つことにしよう。

クレオ 海上！で無うて如何するものか！

カニデ 何故海上とお定めになるのです？

アント 彼奴が海戦を挑むからだ。

エノバ 挑むと言へば、貴下は奴に一騎打をお挑みなすつたちやありませんか？

カニデ さやうく、昔シーザーとポンペーとが戦つたあのファーサリヤで以て、今

度の戦争をしようとお申込なすつたのだ。ところが先方は、自分に不利な

ことは、みんな排斥けます。貴下もさうなさるべきです。

エノバ 身方の船の軍装は十分ちやありません。身方の水夫は驢馬引や草刈男ら

を大急ぎで徴集して間に合せたのです。シーザーの艦隊には屢々ポンペ

イと戦つた場數の剛の者がゐます。敵の船は敏捷です、身方のは鈍重です。

海戦を拒んだからつて貴下の恥にやなりません、陸戦の準備が出来てゐるん
ですから。

アント いや、海でやる、海で。

エノバ 大將閣下、そりや貴下が陸戦で得てゐなさる無類の長所を打棄ツちまふと

いふやりかたです。主として老功の歩兵から出来てゐる軍隊なのに、それ

を分割なさるのは弱くなさるんだ。貴下の名代の兵略の實行もなさらず、

必ず勝てる方法をもお棄てなさるんだ。安全な、確實な手段を避けて勝

負を曖昧な運に任せておしまひなさるんだ。

アント 予は海で戦ふ。

クレオ わしの手許に六十艘の船がある。シーザーにそれ以上はない。

アント 敵のより餘計な分は焚いツちまはう。残つた船だけを十分に軍装して、攻

寄せるシーザーの艦隊をアクチャムの岬から逐拂つてくれう。もし負け

たら、其時こそ陸でやツつけるんだ……

使ひの者出る。

何だ？

使者

報告は間違つてをりません。敵軍は見えて参りました。シーザーはトー

リンを占領しました。

アント

自分で彼方へ攻入つたのか？ ありさうにないこつた。彼處へ敵軍が寄

せたといふのは奇態だ……カニディヤス、おぬしは陸上で十九聯隊と騎兵

一萬二千を指揮してくれ、おれは船へ行く……(クレオパトラに)さ、往かう、海

女神どの！……

一兵士出る。

やア、どんな模様だ！

兵士

お、皇帝陛下、海では戦争をなされますな。腐れ板子は頼みになりませ

ん。どうか此劍や此古瘡を御信任下さい。埃及人やフィニシヤ人は家鴨の真似をするも可うござりますが、此方らは地上に突立つて相接近して戦つて、さうして勝つのに慣れてゐます。

アント

よし。あつちへ！

アントニー、クレオパトラ及びエノバール入る。

兵士

ハーキュリスも照覽なされ、おれの言ふことは、決して間違つてゐないと思ふんだ。

カニデ

いかにも、おぬしのいふことは間違つてゐない。けれども將軍の目下の行動は、すべて其眞の力からは出ないのだ。大將が女連に操縦されてるんだから、吾々一同もお女中達の御家來だ。

兵士

貴下は、聯隊と騎兵とを全部ひきゐて、陸にお留りなのですね？

カニデ

マーカス・オクテギヤス、マーシヤス・ジャスチヤス、それからバブリコラ

とシリヤスとは海へ向ふ筈だ。こちとらは悉く陸に残るのだ。……シーザ
ーが斯う早くやつて来ようとは思はなかつた。

兵士 まだ羅馬にゐるうちから、少しづつ、道を變へて兵を送り出したので
す、だから間諜が欺されたのです。

カニデ 副將はだれだか、聞いたかね？

兵士 トーラスとかいふ男です。

カニデ 彼者ならよく知つてゐる。

使者役の者出る。

使者 皇帝がカニディヤスをお召です。

カニデ 新しい報告が幾らも生れかゝつてゐるので、一分毎に陣痛がかぶるわい。

一同 入る。

第八場 希臘アクチャム附近の平原。

シーザー及び其將トラス一軍隊をひきぬて進軍の體にて出て
来る。

シーザ トーラス！

トーラ 御前？

シーザ 陸上では戦ふな。兵力を分けるな。海戦が終んうちは決して陸戦をし
か

けるな。此書附の規定以外に出ることはならん。身方の運命は此一機
會に懸つてゐる。

入る。

第九場 同じ平原の他の部面。

アントニーとエノパーパスと出る。

アント
あの丘の彼方側に軍隊を陣取らせろ、シーザーの陣形の見える處に。あそこからは船の数が見えるから、それに應じて進退することが出来る。
はひ
入る。

第十場 同じ平原の他の部面。

一方よりアントニーの副将カニディヤス其陸軍をひきぬて出て、舞臺を通過し去る。と他方よりシーザーの副将トラス同様

して出て、他方へ去る。兩方共に入りて後海戦の騒しき物音聞ゆる。

警鐘を亂打する。エノパーパス出る。

エノバ
駄目だ、駄目だ、全く駄目だ！ 最早ひっこたへちやわからない。埃及王の御座船のアントニー號が、六十艘もお侶をつれて、ぐるり彼方向いて逃出したんだもの。あれを見ておれの目は眩んぢまつた。

スカラス 出る。

スカラ
男神たちよ、女神たちよ、ありとあらゆる神々たちよ！

エノバ
どうしてそんなに憤激するんだ？

スカラ
世界の三分の二が空になつちまつた、馬鹿なことをしてるもんだから。何十といふ王國を女の唇を嘗めてるうちに取られつちまつたのだ。

エノバ 戦争の模様は如何なだ？

スカラ 身方側は疫病に罹つたといふ風だ、死るのは定つてらア。埃及のあの淫亂

婆め……癩病にでも取附かりやアがれ！……戦ひの真最中に、敵身方の勢

ひが全然双兒のやうに、五分々々か、事によると此方が上かとも見えた時

に、……六月の牝牛が蛇にでも刺されたやうに……急に帆を揚げて、突走

りやアがつた。

エノバ それア予も見ただ……それを見たので、此目が眩んちまつて、最早その後を

見てゐられなくなつた。

カニデ 女が風下へ船を廻すのを見るが最後、奴の爲に腑抜になつてしまはれたア

ントニーどのは、船の翼をおツびらいて、惚けた鴨が其雌を追掛けるやう

に、大事の戦争を打棄置いて、逃出してしまはれた。こんな破廉恥の戦争

は見たことがない。經驗をも男魂をも名譽をも、前例のない程に辱し

めたんだ。

エノバ あゝ、あゝ！

カニデ イヤス 出る。

カニデ 海ぢや最早身方の運命の息の根は止まつて、なさけない寂滅だ。將軍が元

の通りの將軍であつたなら、こんなことにやならなかつたらうに。あゝ總

崩となつちまつた、將軍が自分で先例を作るもんだから！

エノバ あゝ、貴下もさういふ評かね？ ぢやア、全くさやうならだね。

カニデ みんなはペロポンネサスの方へ落ちて行つたよ。

スカラ あそこへなら容易く行かれる。とにかくわたしは彼處へ行つて、此後の

模様を見ることにしよう。

カニデ 予は聯隊も騎兵もシーザーへ引渡してしまはう。最早既に六ヶ國の王が

降服の方法を予に見せてくれた。

エノバ 予は尙下り坂のアントニーに附隨いてゐよう、損だといふことは分つてゐるんだが。

入る。

第十一場 アレキサンドリヤ。クレオパトラの宮殿。

アントニー、神経が過敏であるらしく、いらくしなから出る。
侍者らや、後れて出る。

アント や、あの音は……陸も予に踏まれるのを嫌むのだ！ 予を載せるのを耻かしく思ふのだ……（侍者らに）みんな此處へ来てくれ……

侍者ら 傍近く進み出る。

予は、此世で宿を取後れて、永久に迷兒になつたのだ。黄金を積んだ船が一艘あるから、汝等は、あれを一同で分配して、逃げる、さうしてシーザーと和睦をしる。

侍者ら 逃げる！なんてことはいたしません。

アント 予さへも逃げた。さうして敵に背を見せることを臆病者に教へた。みんな立退いてくれ。予は汝等を要しない手段を取ることに決した。立退いてくれ。港に予の財があるから、あれを取れ……あ、予は顔見合すをも恥ぢるやうな者の後を追掛けたのだ。予の頭髮すら互ひに怒争つてゐる。白い奴は鳶色を粗暴だと罵ると、鳶色は白い奴を臆病だ、惚てゐると悪口する……みんな立退いてくれ。書面を興るから、それを持つてゆけ、さうすれば、予の友達が汝等の爲に口を利いてくれるだらう。頼む、情ない顔をしてくれるな。決して不承知をいふな。絶望の餘りの宣言だてことを

合點して、自ら棄る者の邪魔をしてくれるな。すぐに海へ往け。船の中の物は汝等に與る。とにかく暫く彼方へ往つてくれ。頼むから。いや、どうぞ。實際子は最早命令する資格はない。だから頼むんだ。後にまた會はう。

アントニー 憎々として椅子に腰をおろす。

クレオパトラ、チャーミヤンとアイラスとに介抱されて憎れて出る。其

後よりイロス出る。

イロス いゝや、何とかお慰めのお言葉をおつしやいまし。

アイラ ねえ、もし、何とかおつしやいまし。

チャー さうですとも！ 是非何とかおつしやらなければいけませんよ。

クレオ 腰掛けさしとくれ。……(力なげに席に著きて) おゝ、ジュノー！

此間アントニーは周囲の事物には無意識なるが如く、兩手にて

おのが頭を抱きて頻りに煩悶しつゝ、獨語をつゞける。自ら責め自ら罵りつゝある體なり。

アント (獨自) 不可いゝゝゝ。

イロス (アントニーに) もし、そつちを御覽なさいまし。

クレオパトラの方を指す。されどアントニーは振向きもせずして煩悶の獨語をつゞける。

アント あゝ、馬鹿なゝゝゝ！

侍女らクレオパトラに勸めてアントニーを慰めさせんとすれども、クレオパトラもまた憎れ果てゝ何もせずぬる。

チャー 御前さまよ！

アイラ もし、御前様！

イロス は更にアントニーの注意を促さんとす。

イロス (アントニーに)もし〜……

アント (それにはかまはず、空想中の對話者に對して獨白をつゞける)なるほど〜……奴は、あのフィリップでは、劍をまるで踊子式に佩けてゐたんだ、予がああの瘦せた皺面のカシヤスをやツつけた時分にや。あの氣ちがひめいたブルータスを成敗したのは予です。奴は代理をよこしてゐたんで、實際兵をひきゐて勇戦なんかしたんぢやない。けれども今は……が、そりや如何でも可い。

クレオパトラ 俄に悶絶せんとする。

クレオ あゝ、だれかわたしを抱へとくれ!

イロス (アントニーに)もし御前、女王が、女王がお見えになりました。

アイラ (クレオパトラに)もし御前、さ、お傍へいらつしやつて、お言葉をお掛け遊ばせ。何だかお正氣がおあんなさらないやうでございます、大變に恥入つていらつしやいます。

クレオ ぢや抱へとくれ。……おゝ!

イロス (アントニーに)大將閣下、お立ち遊ばせ。女王が見えさせられました。女王には御愁歎の體であらせられます。早速お慰めなさいませんければ、お命にもかゝはりませう。

アント (尙獨白をつゞけて)名譽をそこなつてしまつた、此上もない恥づべき失策をしてしまつた。

イロス もし、女王が。

これにてアントニーはじめてクレオパトラを見る。

アント あゝ、埃及よ、お前は予を何處へ連れてつたのだ? お前に此恥面を見せまいと思つて、名譽も何かも破壊されてしまつた過去を回顧する方へばかり心を向けてゐたのに!

クレオ (跪きて)おゝ、どうぞ〜、堪忍して下さい、卑怯にも船を戻したのを、尾い

て來なさらうとは、夢にも思ひがけなんだのぢや。

アント

埃及よ、予の心は、お前の舵へ心の紐で結へ附けられてゐるのだから、引摺られて行くといふことは、お前は善く知つてゐた筈だ。予の魂は、悉くお前に支配されてゐるのだから、お前が招けば、予は、神の命に背いても出掛けて行くといふことは知つてゐた筈だ。

クレオ

お、救して下さい！

アント

斯うなれば、あの若輩者へ謙下つて條約を申込まなければならん、卑劣な零落者同様に、小刀細工をしたり、二枚舌を使はんければならん、國王を亡したり作つたりして、世界の半分を心のまゝに玩んだとある此予が。貴女は、どの位わたしを征服してゐるか、善く知つてゐた筈だ。情の爲に弱くなつてゐる此劍は、只もう情の命するまゝにしかならんといふことも。

クレオ

堪忍して下さい、堪忍して下さい！

クレオが床の上に倒れて泣く。アントニーの心解ける。

アント

涙をお落しなさるな。其一滴々々が、わたしが得たり失つたりした一切の物に相當する。……接吻して下さい。……（相抱きて）これだけで最早償ひが附く。……先刻、あの師傅を使者にやつたんだが、歸つて來ましたか？ 予は全然頭に鉛が充つてるやうな心持だ。……（奥に向ひて）や、だれか其處にゐるなら、酒を持つて來い！ さうして何か下物を！……人間は、運命の最大打撃を蒙つた場合には、却つて運命を馬鹿にしてかゝるものだ。

入る。

第十二場 埃及。シーザーの陣營。

シーザー、ドラベラ、シディヤス、其他の者をひきゐて出る。

シーザ アントニーの使者を呼入れなさい。其男を知つてゐますか？

ドラベ シーザー、彼者は師傅です。これは彼れが羽拔鳥となり下つた證據です、數ヶ月前までは有り餘る程に王を使役してゐた彼れが、人もあらうに、あんな見すばらしい破羽根同様な者を使者によこすといふのは。

アントニーの使節としてユーフロニヤス出る。

シーザ 進んで口上を申せ。

ユーフ かやうな爲體ながら、私はアントニーの使節でござります。つい近頃までは、私と彼人との關係は、マートルの葉末に置く朝露と大海との關係の如くでござりました。

シーザ それはそれとして、使者の用向を申せ。

ユーフ アントニーは、閣下を彼れが運命の主とお呼掛け申し、埃及に留り住むべきお許可を願ひまする、右お許可なきに於ては、更に願ひの筋を減じまし

て、せめてアゼンスの一人となつて、此天地間に呼吸するの許可を賜りますやう願ひまする。彼れに關してはこれだけ。次に、クレオパトラは閣下の偉大にあらせられることを自白し、御威勢に服従し、御意によつては或ひはお召上げにも相成るべきトレミー家代々の王冠を、何卒其繼嗣等に下し賜はらんことを請願いたしまする。

シーザ アントニーに關しては、願ひを聴く耳はない。女王は、面會も希望も、或ひは許すであらう、其不面目な友人を埃及から逐出すか又は命を絶つか致せば。それさへ成遂げれば、願ひの筋を聞届けるであらう。さう兩人へ申せ。

ユーフ 御好運にわたらせられませい！

シーザ 陣中を警護して通しやれ……

ユーフロニヤス 入る。

(シディヤスに)おぬしの辯舌を試験する時が来た。急いで行つてくれ。アントニーの手からクレオパトラを奪るのちや、予の名前を使つて、何でも彼女が望むものを興る約束をせい。おぬしの思ひ附で、條件を増すが可い。最も好運な時でも、女は強い者ぢやない。況んや窮すれば、清浄無垢の處女尼でも偽誓をしかねない。おぬしの腕だめしぢや。其骨折を賞する辭令書は自分で起草するが可い、其通りに實行しようから。

シディヤ では往つてまゐります。

シーザ アントニーが如何此逆運に處してゐるか、彼れの一舉一動の上に現れる所に就いて、とくと觀察しておいでなさい。

シディヤ 承知いたしました。
入る。

第十三場 アレキサンドリヤ。クレオパトラの宮殿。

クレオパトラ、エノパーパス、チャーミヤン及びアイラス出る。

クレオ エノパーパスや、どうしたらよからう！

エノパ 絶望してお死になさいまし。

クレオ 一體アントニーがわるいのか、わしがわるいのか？

エノパ わるいのはアントニーのだけです、理性を情の奴隷にしたんですからね。よしんば貴女がすさまじく威嚇しあふ、偉大い戦争の面を見て、おびえて逃げたからつて、彼人が尾いて行く譯はないぢやありませんか？ あゝいふ場合に、くすぐつたい色男の真似なんか大將にされて堪るもんか！ 世界分け目の戦ひだ、あの人が問題の中心なんだ。面くらつてゐる身方の海